

倪蔣懷  
A Tribute to  
Ni Chiang-Huai  
紀念  
展

倪子  
樣徑  
藝文系

- 
- |     |              |
|-----|--------------|
| 003 | 倪蔣懷日記 1929 年 |
| 093 | 倪蔣懷日記 1931 年 |
| 127 | 倪蔣懷日記 1938 年 |
| 185 | 倪蔣懷日記 1939 年 |

| 倪蔣懷日記 | The Journals of Ni Chiang-Huai

倪蔣懷日記 1929 年

發行人 | 代理館長劉得堅

日文釋讀 | 中央研究院歷史語言研究所助研究員 鈴木惠可

日文釋讀校對 | 國立臺灣大學藝術史研究所副教授 邱函妮

| 中央研究院臺灣史研究所博士後研究人員 徐聖凱

執行編輯 | 莊慈、何冠緯

美術設計 | 胡若涵

數位出版日期 | 中華民國 114 年 9 月

發行所 | 臺北市立美術館

104227 臺北市中山區中山北路三段 181 號

電話 | (02) 2595-7656

版權所有 | 臺北市立美術館

文字版權所有 | 釋讀者

\* 為尊重智慧財產權，參考使用需標示「釋讀者姓名」

#### 編輯凡例

一、日記原文無標點，為便於讀者理解特加標點符號。

二、文中日文漢字統一使用「日本新字體漢字」。

三、為求版面統一，文中內容皆不換行。

四、原文標記刪除的部分（作者因書寫有誤而刪除者），一律刪除。

五、文中「四つ切」、「八つ切」之「つ」，因平假名與片假名之大小字「つ」、「っ」、

「ツ」、「ッ」皆有出現，為方便讀者閱讀，統一使用平假名大字「つ」。

六、文中如有漏字，以【 】補之。

七、文中如有無法辨識的字，以□標示。

八、文中如有錯字，更正於後之〔 〕內。

年 四 和 昭

# 美術術日記

1929



中 央 美 術 出 版 社

## 1月

一月一日 火曜 雨

七時五十分で猴硐へ、次の列車で武丹坑へ年始に行って三時帰宅。未出しの年始状及市内廻礼の煩を省いて年始状を出した。

一月二日 水曜 曇

六時半で南投へ写生旅行に石川師を追って行った。清水駅で下車して八つ切を三枚スケッチした。駅長河合氏に遇ひ親切に呼ばれたので一寸いった。八時過南投ホテルに着した。

一月三日 木曜 雨 南投晴

朝食前八つ切一枚スケッチしたがよく出来なかった。先生と一しょに名間へ行って四つ切一枚。南投へ帰つて町はづれを八つ切一枚四つ切二枚スケッチした。夜当地の視学及学校の先生に紹介され画を見せたが、傑作のないのを恥しく感じた。

一月四日 金曜 晴

朝食前四つ切一枚。九時頃から先生と一しょに四つ切

一枚スケッチして、十一時三十五分南投を去つて隘寮へ行って四つ切二枚スケッチして、六時頃二水について中央ホテルに宿った。石川先生台中へ廻つて帰られたので一人で寂しかった。

一月五日 土曜 晴

六時半で集々へ行って四つ切二枚スケッチして、十時過彰化へ行った。中食後四つ切二枚スケッチして、七時頃台中に着いて中和館に宿った。陳植棋氏帰りが遅いので十二時前にやっと会つて絵を見せ種々話をした。

一月六日 日曜 晴

五時五十五分で台中を発して大安で下車して、火炎山を四つ切に描いたがきれいすぎて深みが足らない。九時の列車で苗栗へ行って四つ切二枚スケッチした。二時過に新竹へ下つてもう一枚描い〔き〕たかったが、風はつよし非常を〔に〕つかれを覚えたのでずっと帰つて來た。板橋で真野氏に会つた。明日会ふ約束をした。七時前帰宅。

一月七日 月曜 雨

六時半で出北、日の丸館へ真野氏を訪ねに行って画の

批評を乞ふた。後宮から金を受取って、十一時十五分で帰宅。夕方、旅行中スケッチしたのを補筆した。晩、未返事の新賀状を書いた。

### 一月八日 火曜 雨

十時十分で武丹坑へ支払に行って六時帰宅。夕食後、財産状態を調べた。

### 一月九日 水曜 晴

午前中は中部旅行のスケッチを補筆し、新高山を記憶に依って描いた。藍君に真野氏の来たのを知らせ出北を勧めた。一時半で猴硐へ行って七時帰宅。

### 一月十日 木曜 晴

四時二十分の汽車で石底へ行った。早くて寒いから始〔初〕めてオ【一】バ【一】コートを使った。二坑々内を見て坑夫の所得を調べた。用事がすんでから四つ切一枚スケッチした。四時に菁桐坑を発したが三貂嶺で四時五十分の汽車にのりおくれたので、猴硐へ寄って野田氏を訪問して、第一斜坑再掘の件に就いて相談した。九時帰宅。

### 一月十一日 金曜 晴

朝かきかけた新高山を完成した。九時台車で瑞芳貯炭場へ行って、十一時で武丹坑へ行って、六時帰宅。藍君から返事が来た。出北出来ない事。

### 一月十二日 土曜 晴

六時二十分家を発して崁脚坑へ向った。金山線の軽鉄に始〔初〕めて乗っていった。一時間余で瑪鍊について、四つ切一枚スケッチした。気持よくいった。時間の余裕はあるし景色はよいのに紙は一枚しかないので惜しく思った。崁脚へ行く途中瀧口技士に会って方針を聞いた。二時二十分、炭坑を去って四時二十分帰宅した。

### 一月十三日 日曜 晴

六時半の列車で南港へ行って陳植棋を訪問。其の家から見た景色を四つ切に一枚描いて、十時過の列車で出北、円山へ行って又四つ切一枚スケッチした。晩、石川先生を訪問、描きためた画の批評を願って十時帰宅。

### 一月十四日 月曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って、十一時に武丹坑へ行った。胃病苦しかったので三時帰宅して静養した。梶塚

氏から借金を頼まれた。

一月十五日 火曜 雨

司令部へ検閲に画を持って行った。新に許可証を貰った。

一月十六日 水曜 雨

十時十分で武丹坑へ行って六時帰宅。西村坑に就き川口氏から注意されて、成績の挙がらない事を心配した。

一月十七日 木曜 雨

十時三十五分で出北、兄に案内して貰って漢法〔方〕医に診察を受けた。円山で四つ切一枚スケッチして五時帰宅。

一月十八日 金曜 曇

早朝から起きて西村坑の結算をやった。三時、真野氏と朝日丸に出て梶川氏を見送った。真野氏来宅、近作を批評して貰った。

一月十九日 土曜 雨

七時五十分で猴硐へ行って、十一時に武丹坑へ行って三時帰宅。気分悪く早くやすんだ。

一月二十日 日曜 晴

六時半で出北、真野氏と淡水へ行ったが、風強かった為め画かずに真野氏の画くのを見たが、感心しなかった。気分悪かったので、早く別れて二時三十八分の列車で帰った。時間前に四つ切一枚スケッチしたが出来ませんでした。

一月二十一日 月曜 雨

七時五十分で出北、後宮から請負賃を貰って、十二時過帰宅。

一月二十二日 火曜 雨

十時十分で武丹坑へ支払に行って、一時半で猴硐へ行ってから、瑞芳貯炭場へ廻って、運炭を督励して台車で五時半帰宅。

一月二十三日 水曜 雨

脇坂氏の弟保険勧誘に来たので方々へ案内した。晩、

時津氏、尾家氏を訪問して窮状を述べた。

一月二十四日 木曜 雨

七時五十分で猴硐へ行って、貯炭場の作業に就いて小苦力頭を督励した。次の汽車で武丹坑へ行って三時帰宅。六時より新高樓で開く在基國師会定会に出席し、八時から太田氏を訪問して仕事の心配をして貰った。

一月二十五日 金曜 雨

七時五十分で出北、自動車で板橋へ行って梶塚に後援金を渡した。十時五十分で帰北、漢法〔方〕医に見て貰った。黃東茂事ム所へ借家の交渉をした。一時四十三分で又板橋へ行って、四つ切一枚スケッチしたが、時間少ないので出来が悪かった。四時帰北、五時四十五分で帰基した。晩、小林氏を訪問、十七坑苦力頭を運動した。

一月二十六日 土曜 曇

正午、基隆炭礦会社から慰労金を貰った。猴硐の方から百二十円、崁脚の方から百円あった。二時四十分で南港へ植棋君の招待を受けに行った。其家を四つ切にスケッチした。八時十分帰宅。

一月二十七日 日曜 雨

七時五十分で出北、陳植棋と一緒に大橋頭を描くつもりでしたが、雨の為めに出来なかった。陳材頭の宅で御馳走になって、三時楊佐三郎を訪問しやうと思つていったが留守なので失望した。真野氏もまだ帰北しないので、四時の汽車で帰宅した。今日はなにもせずに一日をむだに過したのは如何にも残念でした。

一月二十八日 月曜 雨

七時五十分で猴硐へ行く。第三斜坑選炭を完全にするやうに命令す。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。晩、中台商事に行って水選の事に就いて打合せした。

一月二十九日 火曜 雨

九時半で出北、真野様を訪問。展覧会の案内状の手伝をして五時帰宅。

一月三十日 水曜 雨

七時五十分で猴硐へ行って、第三斜坑水選方法を完全にする様指導し、貯炭場旧新年積込に就いて打合せした。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。猴硐貯炭場苦力けんかをして郡役所に引張られたので貰ひにいった。

一月三十一日 木曜 雨

旧正月写生旅行に備ふべく樂みに待った絵具及イエーゼル到着したが、十九号画架脚折れて居るので直ちに取換に出した。十時真野氏来宅、顔家及基隆社へ案内した。五時半で出北、展覧会の手伝をして終列車で帰宅。朝の二時迄眠れなかった。

2月

---

二月一日 金曜 雨

猴硐貯炭場ゴタゴタしてゐるので、十時十分で行って三時帰宅。川口氏と一緒に林朝宝の宅で海山炭礦斤先請負の事に就いて打合をした。

二月二日 土曜 雨 寒気厳しい

猴硐積込問題及第三斜坑水選問題の為め、七時五十分で行って十一時帰宅。二時四十分で出北、真野氏の展覧会を見てから陳英声君の宅へ行って、六時から江山樓で後宮合名会社の新年宴会に出席、十時帰宅。

二月三日 日曜 雨

十二時半で出北、漢法〔方〕医に見て貰って粉薬を貰った。英声君を訪問したのち、真野氏の展覧会場へ行った。石川先生を訪ね山紫水明帖を貰った。研究所設立の件を勧められ社会奉仕の一端として実行すべく決心した。

二月四日 月曜 雨

六時半で顔窗吟等と一行九人で海山炭礦を見に行つ

た。十時帰宅。久振に坑内へ而も急傾斜の所でしたから非常に疲れた。

### 二月五日 火曜 雨

六時半で出北、黃東茂と借家契約を締結し敷金百五拾円渡した。後宮から請負賃を貰った。吳維金午后来宅、窮状を聞いて同情に堪えないが、自身が苦しいので助ける事が出来ないのは残念でした。

### 二月六日 水曜 雨

旭橋畔黃東茂の家へ転宅した。

### 二月七日 木曜 雨

七時五十分で猴硐、武丹坑へ行って、六時帰宅。吳維金来宅、林覚の画を売に来たが価格が高いし経済が苦しいので断って台北の徐大頭に紹介すべき事を約束した。

### 二月八日 金曜 雨

十二時半で出北、甜粿を脇坂外二名に贈った。五時帰宅。徐大頭に林覚の画をすゝめた。

### 二月九日 土曜 雨

十二時半で出北。川島理一郎氏の展覧会を見に行つた。陳英声君を訪ね、研究所に使ふべき家をさがさした。四時の汽車で猴硐駅へ行った。大晦日になってから積込の苦力仕事をしないので、終列車まで居つて善後策を講じた。台北から帰る列車内で陳植棋君に会った。

### 二月十日 日曜 雨

八時半の急行で南部旅行に出発。車中中村保三に会ひ、新竹から川口氏等三人と合せて一行五人頗る賑か。夜潮州広田館に宿つた。中村氏から健康法として諸運動を学んだ。至極簡単で実行容易、共にやって見た。

### 二月十一日 月曜 南部晴

朝食前八つ切一枚スケッチ。七時五十分貸切自動車で鵝鑾鼻へ向つて出発、途中ゴマオホ\*の並林殊に美しかった。楓港□□で八つ切一枚スケッチ。十時半頃恒春に着、四つ切一枚スケッチした。始〔初〕めて画らしく出来た。十一時半又出発、十二時過鵝鑾鼻に着した。昼弁当をすましてから燈台の上にのぼつて見た。八景の一ですが大里に及ばない。八つ切一枚スケッチしたが、光線の具合悪かった。二時に出発、途中船帆石殊に美しく、画興わいたが同行の犠牲になつてかけなかつたのは残念でした。三時半に四重溪に着、画題

に乏しく失望した。四つ切一枚無理にスケッチした。  
温泉に入浴、夜公共浴場に宿った。

\* 編按：依原文筆跡辨識可能爲「オホ」二字。

### 二月十二日 火曜 晴

七時五十分出発、帰途に就く。車城を見たが画になる  
処多く、同行者の為め残念ながらかけなかった。途中  
海口での処大変よろしく非常にかきたいが又さまたげ  
られた。打鉄で褒忠門を八つ切にスケッチしたが、地  
平線中央になって面白味薄かった。十一時十分潮州発  
の列車で高雄に行った。春田館で中食、三時頃写生に  
出掛けたが逆光線でかゝらずに自動車で旧城へ行って、  
東門を四つ切に半屏山を八つ切にスケッチしたが、八  
つ切の方却って面白かった。八時半の乗合自動車で高  
雄へ帰って宿った。他の者夜行で帰北、一人だけにな  
って淋しかった。これから写生には却って都合がいい。

### 二月十三日 水曜 南部曇

七時二十分で旧城へ行って、四つ切一枚スケッチして  
十時十三分で台南へ行って、大福館で休息、中食後写  
生に出た。小西門を八つ切一枚四つ切一枚かいたが稍  
気に入った。夕方東門を四つ切にスケッチした。九時  
三十一分の夜行で帰基。車中、又中村保三に会った。  
夕方、台南もバラバラ降りだした。

### 二月十四日 木曜 雨

七時二十なん分帰基。十時十分で武丹坑へ行って、猴  
硐へ廻って六時帰宅。

### 二月十五日 金曜 雨

基隆社及び銀行の用をすまして、午後室内から船を見  
た処をコックス半切に一切かいた。しぶい色が出て面  
白くいった。十九号画架到着、早速使用して見た。

### 二月十六日 土曜 雨

在宅、三階大掃除をやって畳を新調した。清潔になっ  
て気持よかったです。中村保三から南部旅行の謝礼にと浮  
世絵等の版画をくれた。尚、西式強健術の本を貸して  
くれた。

### 二月十七日 日曜 晴

久振に好天氣になって何ともいへないよい気分でした。  
七時五十分で瑞芳へ行って、四つ切一枚スケッ  
チ、十一時に武丹坑へ行って、二時に猴硐へ寄って六  
時帰宅。

二月十八日 月曜 曇

六時四十分出発、瑪鍊へ行って四つ切一枚写生。十二時半崁脚に着、瀧口氏を訪ね、第三斜坑分坑々内を見て三時半帰った。七時半帰着。陳植棋から来信、藍君から出品画又到着。山田氏晚方來訪、第三斜坑選炭方法に就いて指導してくれた。

二月十九日 火曜 晴

七時五十分で西村坑へ行って、水選方法等を研究した。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。晩、許梓桑外三名の祝賀会に出席、来賓答辭の通訳をやった。

二月二十日 水曜 晴

九時半で出北、後宮から金を受取ってから徐大頭の家へ行き、英声君を訪ねて研究所の家を尋ね、夕方石川師を訪問。画の批評を頼み、水彩画会出品画を選んで貰った。七時帰宅。

二月二十一日 木曜 晴

十時十分で武丹坑へ支払に行って三時帰宅。

二月二十二日 金曜 晴

午前出品画を訂正してさいんした。藍君の方をも落款を訂正した。午后一時半で猴硐西村炭坑へ行って六時帰宅。

二月二十三日 土曜 晴

七時五十分で猴硐へ行く。野田氏等のすきなバラの水彩画を持っていった。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。

二月二十四日 日曜 雨

午前は野口秋香の日本画展を見に行って、葡萄一点を買〔売〕約した。贊助員と名を出されて仕方なしに出した。午后二時、顏國年氏外三名の答礼宴に顏氏邸園内で招待された。三時半頃すんで山田氏を訪問。第三斜坑の水選の結果よくなつた事を聞いて愁眉を開いた。其他炭層の変動と地辻の事に就いて説明をきいた。帰【宅】後障子をはった。半分出来た。水彩画会出品画の荷造をした。

二月二十五日 月曜 雨

日本水彩画会出品画を真野氏に送付した。四点の外に後から更に一点出した。障子を張ってしまってから、

八号二枚のカンバスを張った。芸妓鳳舞の家から見た聖王公廟中々面白く書きたいのでかりる交渉をした。夕方、基隆社の鈴木氏来宅、石川先生の画を見せた。買ひたいといったので持って来て見せたら、いやといふので気持悪かった。

二月二十六日 火曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。

二月二十七日 水曜 晴

国年氏猴硐へ行くので十時十分隨行して行った。中食後、西村坑の水選場へ案内した。六時帰宅。晩、小林慶作氏を訪問し、岸壁の仕事の缺点を話した。九時頃、台銀支店長外二名来宅、藏品の水彩画を見せた。

二月二十八日 木曜 晴

午前は基隆社及銀行の用をすまして、午后から帳簿の整理をした。晩、尚志会に出席、九時過ぎ帰宅。次の当番幹事に当った。

### 3月

---

三月一日 金曜 曇 晚雨

七時五十分で猴硐へ行った。西村坑出炭不振で心配した。十一時で武丹坑へ行って一時半で川口氏と帰来、小岩氏の見送に出るつもりでしたが例の胃病本日又悪くなつたので見合せた。春鳥会、アトリエ社、高橋惟一に転居の知らせを出した。藍君から来信、名付けた大平飴を贈ってくれた。

三月二日 土曜 雨

十二時半で出北、如洋の日本画展を博物館で見た。後宮会社で建物会社から月賦で土地を買ふ件を聞いて申込を頼んだ。

三月三日 日曜 雨

朝、中台へ行って水選改善の打合をした。午后迄西村坑の収支結算をやつた。夕方、二公の校長来宅、市尹及自分に一枚宛水彩画を貰つて行った。

三月四日 月曜 雨

七時五十分で西村坑へ行って、水洗方法を指導した。

十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。石底二坑用のボイラー米満鉄工場に千二百円で請負はす事に決定して来た。藍君へ礼状を出した。

### 三月五日 火曜 雨

七時五十分で出北、後宮から請負金を貰って三時帰宅。

### 三月六日 水曜 雨

十時十分で武丹坑へ支払に行って六時帰宅。川口氏から石炭低温乾溜事業の有利な事を聞き、始〔初〕めたい事を打合した。

### 三月七日 木曜 晴

午前中は何十字ニ対し聘金詐取の告訴をなすべく草稿をした。午后外出して、応出用の籐製テーブル及椅子を購入し、三階の干物を整理したら、はればれした気持がした。女の裸体美の新研究の書を読みました。

### 三月八日 金曜 晴

六時半で出北、公館で四つ切一枚写生。十一時頃、富田町の本宅に帰って母の忌辰を祭った。五時帰宅。

### 三月九日 土曜 晴

七時五十分で出北、猴硐、武丹坑へ行って三時帰宅。俱楽部で如洋画展を見た。半切の山水一枚註文した。

### 三月十日 日曜 晴

今日は陸軍記念日と同時に自分の炭礦に入った記念日である。大正九年から今日迄満九ヶ年になったが、成功しかけて又失敗してまだ思ふ通にいかないのは感慨無量である。六時半で出北、川口氏を訪問、石底二坑のボイラーに就いて打合をしたが、原案通り解決がついてよかったです。円山に人力車で写生を行ったが、途中衝突して覆されてビックリしたが、負傷はなかった。剣潭寺を四つ切に一枚スケッチして、中食後英声君を訪問し、共に公館へ行って、四つ切一枚スケッチした。六時頃石川先生を訪問し、七時十分で帰宅。

### 三月十一日 月曜 雨

六時半出発、崁脚へ行った。行きがけに瑪鍊へ寄って、四つ切一枚スケッチした。瀧口氏に会ひ、分坑請負区域増区に就いて頼んだ。三時に崁脚を出発して六時帰宅。途中、雨降らなかったのはよかったです。

三月十二日 火曜 曇

七時五十分で猴硐へ行った。第三斜坑増区の事を野田氏に頼んだが、賛成してくれた。武丹坑へ行ったが、役員は皆留守なので三時に帰宅。水彩展皆一枚宛入選の電報がついたので、それぞれに知らせた。

三月十三日 水曜 晴

川口氏来宅するかも知らぬと思って、午后迄待ってゐた。午后四時二十分で出北、晩石川先生を訪問した後、英声君を訪ね、研究生の研究様子を見て、十時帰宅。

三月十四日 木曜 曇

七時出発、台車で瑞芳貯炭場を経て九坑第三斜坑へ行った。十一時で武丹坑へ行って、三時帰宅。晩、時津氏を訪問、第三斜坑増区を歎願した。

三月十五日 金曜 曇

一時半で猴硐へ行く。貯炭場の係員二人ともやめさせ、新に二人を入れた。古い人は不都合とはいへ、いよいよやめさす事を宣言した時は、殊に同情に堪へなかつた。

三月十六日 土曜 晴

七時五十分出発、猴硐及武丹坑へ廻って六時帰宅。晩、昭和採炭会社の披露宴に招待された。

三月十七日 日曜 晴

六時半出北、日英館及石川師の宅へ蔭鼎君をさがしたが、会へなかった。二九年社展を新聞社で、日本美術協会審査員某画伯の個展を博物館で見たが、何れも感心しなかった。十時頃土岡氏を訪問し、記念に石川師及自分筆の水彩画を一点宛贈ったら大喜、中食を饗應された。一時前に蔭鼎君を訪問、四時共に来基。

三月十八日 月曜 晴

六時半、藍君と共に出北、川口氏と板橋へ行き、梶塚氏と三人清水坑へ炭坑見に行く。十二時五十分自動車で帰北、五時四十五分で帰宅。

三月十九日 火曜 曇

十時十分で武丹坑へ行って、六時帰宅。晩、松田司令官を訪問、記念に台南迎春門の水彩画を贈った。

三月二十日 水曜 晴

七時五十分で出北、後宮から金を貰って十二時過帰宅。石川先生二時頃来宅、一時帰国するから見送に船へ行った。船内にて参考品集めの事等打合せた。晩、時津氏を訪問、水彩画の絵具及本等を与えて研究を勧めた。

三月二十一日 木曜 晴

十時十分で武丹坑へ支払に行って、一時半の列車で出北、土岡氏送別の宴に出席した。川端町清涼亭でやった。会員二十二名、八時過すんで二次会を萬華新高遊廓でやった。始 [初] めて遊廓を見た。終列車で帰宅。

三月二十二日 金曜 晴

午前第二公学校の卒業式に参列した。蘭英の卒業終書を始 [初] めて貰ったのを見て、萬感交至った。午后、前要塞副官來訪。

三月二十三日 土曜 晴

十時十分で武丹坑へ行って、六時帰宅。

三月二十四日 日曜 晴

朝から所得税調査官吏来宅。九時半、太田元司令部副

官転勤見送に出て、序に出北。博物館で大津氏の油絵展覧会を見たがさほど感心しなかった。新聞社で日本画展を見て、安物を四幅買った。午后、士林へ公学校に於ける洋画展を見て、承藩君を訪問したが留守だったので、台北へ戻って英声君を訪問、四時帰基した。晩、岸田氏を訪問、画の事を話した。

三月二十五日 月曜 晴

午前中台及銀行の用をすまして、午后松田司令官帰國の見送に出た。午過ぎ、陳承藩君来宅、一泊した。晩、何十字に対する告訴状及何闇嘴に内容証明を書いた。承藩君と赤島社展覧会の打合をした。藍君から来信、四月頃第一第二高女の先生になる内定を聞いて自分の様に喜んだ。

三月二十六日 火曜 晴

七時五十分で西村坑へ行って、十一時に武丹坑へ行って、午后又西村坑へ来て、水選方法を研究した。

三月二十七日 水曜 晴

蘭英、基隆女学校の入学試験受けに出たので、見に行つた。

三月二十八日 木曜 曇 雨

七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行って、一時で又猴硐へ来て、西村坑の水選方法を研究した。

十一時十五分、川口氏等と南港へ炭坑見に行って、五時帰宅。

三月二十九日 金曜 雨

九時半出北、後宮会社へ寄って、藍君に頼まれた借家の事を頼んで一軒あるといふので見に行ったが悪かった。方々さがしたところが、蓬萊閣の前にあったが、当分の研究所に最も適當と思って、早速手付を打った。更に其辺の先に新築したものを見出したから、早速藍君に返事した。ひるすぎ、張純甫を訪ね書を頼んだ。先方から画帖を頼まれた。晩、英声を訪問したが、病気だった。葉鍊金に会し、辜鴻鳴の経歴を聞いた。適當な研究所用の家を借り得たので、最も愉快だった。

三月三十日 土曜 雨

十時十分で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って、六時帰宅。頭痛がしたので、食後直に就寝、薬をのんだ。姉、久振で台中より来宅。

三月三十一日 日曜 曇

七時五十分出北、白土氏を訪問したが留守だった。

4月

四月一日 月曜 雨

十時十分で武丹坑へ行って、西村坑へ廻って六時帰宅。郡司法主任花輪氏の送別会に出席。

四月二日 火曜 曇

野田氏来宅するといふので山へ行かずに在宅したが、こなかった。昨日上山するやうの電話が来た。第三斜坑の帳簿整理をした。夜中、藍君から明日一番でたつ電報がきた。彰銀貸付係作山氏、埔里へ転勤するので挨拶に來た。

四月三日 水曜

\* 編按：依家屬意願 4 月 3 日內容不予公開。

四月四日 木曜 晴

八時半元彰銀貸付係の作山氏を見送り駅へ出た。午后一時蘭英の女学校入学式に参列した。四時二十分出北、蔭鼎君を旅館に訪問。全君を引立てた教育係長、視学に礼に友人としていた。全君と英声君を見舞いに行った。

四月五日 金曜 晴

早朝、脇坂氏を訪問。鉄道部から新に開放した炭礦の請負を勧め、武丹坑請負賃値上の事を願った。十一時過帰宅。晚、石川先生と植棋から来信、水彩展の批評を知らせてくれた。

四月六日 土曜 晴

後宮氏上京するので九時見送りに出た。十時十分で武丹坑へ支払に行って、二時瑞芳へ下って駅から運賃を聞いて台車で帰宅。

四月七日 日曜 曇

左足疗出来たので山へ行かずに家で休んだ。真野様から台日水展出品の雨の絵葉書等送って來た。

四月八日 月曜 早朝雨後晴れた

足が痛いので相変わらず山へ行かず、家で休んだ。雨の絵葉書で主な友人等へ転居の知らせや台水展出品の予告をした。午前、姉の肖像を木炭全紙に木炭で描いた。午后、山田闡一氏來訪、壳炭に就いて打合あつた。

四月九日 火曜 曇

午前、森末太郎一寸來訪。晩、基隆座で日本少女歌劇を見たが、非常に面白いので最後まで居った。

四月十日 水曜 曇後小雨

午前、尚志会の開会の打合があった。晩、高砂樓で第二公學校長の送迎会があった。閉会後、少女歌劇を見に行ったが、前夜と同じ芸題で失望した。

四月十一日 木曜 雨

午后一時から水彩で姉の肖像を描いたが、よく出来なかった。後石膏像のデッサンをやった。

四月十二日 金曜 晴

石川先生帰来、午后一時出迎に行く。二時の臨時列車で帰北。

四月十三日 土曜 晴

七時五十分で出北、ホテルで開会の甘露園後援の美術展覧会を見た。社会事業に後援する意味で色紙一枚、短冊二枚、小品油絵一枚買った。中出氏に会ひ、台灣の美術界の状況を話した。次に新聞社で開会の小早川

秋声の日本画会を見て晴間一枚買った。

四月十四日 日曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って、第三斜坑右部増区の件に就て相談した。三時帰基、四時石坂氏夫人の追悼式に出席。晩、尚志会の当番幹事に当ったので出席した。

四月十五日 月曜 晴

午前八時から民事調停室で養女の事件の調べがあった。午后一時四十分で出北、英声氏、石川先生を訪問、研究所開設の準備の打合せをした。石膏像を買求め、十時帰宅。

四月十六日 火曜 晴

台灣水彩画会展出品勧誘の手紙を内地の主なる画家に出した。芸天社に台灣水彩画会の近況を報告した。十時十分武丹坑へ行って六時帰宅。晩、小林慶作氏を訪問し、林朝宝の為に辯解した。

四月十七日 水曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って、野田技士に第三斜坑の返事をして、すぐ台北へ出る予定でしたが、四時迄待つ

ても上坑せず、とうとう用を達せずして帰った。

四月十八日 木曜 雨

陳承潘君上京するので見送に出た。学資五十円補助した。洋画自由研究所規則を草案した。午后、猴硐へ行って第三斜坑増区ノ返事ヲシタ。

四月十九日 金曜 曇

十時半で出北、藍君を訪ねてから一しょに英声君、陳清波君及先生を訪問し研究所規則草案を見せた。晩、藍君の家に宿った。

四月二十日 土曜 朝雨後晴

後宮から金を受け、十二時半又藍君の宅に行って休んだ。六時蓬萊閣で石川先生及藍君と晚餐を共にした。先生に研究所に用ふべき家を見せた。十時帰宅。帰りが遅いので父心配して電話で台北へ照会した。杞憂に属するが、親の子を思ふ心は年と共に深くなる。游柏君から来信、南京の写真を数枚送って來た。

四月二十一日 日曜 晴

十時十分で武丹坑へ支払に行って、二時に猴硐へ廻っ

て水選方法を研究した。六時帰宅。

四月二十二日 月曜 晴

午前は何氏査某の件で調停所出張所へ出た。とうとう四月末日に五十二円、七月末日に五十円、十月末日に百円返還する事に調停された。一時半の列車で瑞芳へ行って貯炭場へ寄って指図をしてから、町を四つ切に一枚スケッチして、台車で帰宅した。

四月二十三日 火曜 晴

早朝から水展入選の画の位置を四つ切に写生したが、よく出来なかった。七時過ぎ高橋惟一氏来訪。午后二時四十分の列車で出北、高橋氏を訪問した後、夕方艋舺のカフヘー〔カフェー〕へモデルさがしに行きました。

四月二十四日 水曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って武丹坑を廻って、三時帰宅。芸天社に研究所設立の事や藍君の事を投稿した。

四月二十五日 木曜 晴

早朝から白船を一枚描いたが、やや感じがよかったです。

朝食後、港口を描いたが不出来。午后二時四十分で出北、マンカヘモデル頼みに行ったが応じなかったのに失望したが大正街で快よく応するのがあって、殊にうれしかった。十時帰宅。

四月二十六日 金曜 晴

十時十分で武丹坑へ行って六時帰宅。吳茂仁君、画会の件で来宅。

四月二十七日 土曜 曇後雨

吳茂仁君を案内して諸名士を訪ねて頼んだが、不成功に終った。一時より二公の保護者役員会議へ出て、四時帰宅。五時半で出北、藍君の宅に宿った。

四月二十八日 日曜 朝雨後晴

朝、脇坂氏を訪問。叭噠港請負を勧められた。午后、英声君を訪問。研究所開設の打合をした。夕方、石川先生を訪問。研究所規則の修正を受けた。

四月二十九日 月曜 雨

七時五十分猴硐へ行って、十一時武丹坑へ行って、六時帰宅。

四月三十日 火曜 曇

十二時半で出北。研究所開設の準備をなし、英声君を訪ねた後、共に藍君を訪問し、十時帰宅。

5月

五月一日 水曜 晴

七時十五分出発、崁脚へ行って、五時二十分帰宅。

五月二日 木曜 晴

七時五十分出発、猴硐及武丹坑を廻って六時帰宅。

五月三日 金曜 曇

妻と子供四人で七時五十分出北、北投へ入浴し、午後  
帰北。陳英声及藍蔭鼎を訪問、七時帰宅。

五月四日 土曜 雨

十時十分武丹坑へ行って、三時帰宅。

五月五日 日曜 雨 台北

七時五十分で出北、楊佐三郎の個展を見た。十二時過  
英声君と石川先生を訪問後、太田氏を訪問。夕方、藍  
君と研究所用の椅子買ひに出た。藍君の宅に宿った。

五月六日 月曜 晴 台北

朝、研究所借賃を四十円やった。電灯中止を申込んだ。  
一時五十分帰宅。晩、時津氏を訪問してから河野  
様を訪問し、十一時前に帰った。

五月七日 火曜 晴 十、武

十時十分で武丹坑へ支払に行って、二時に猴硐へ寄つ  
て、六時帰宅。

五月八日 水曜 台北

十時半で出北、太田氏と共に昼食をやって全氏の心を  
聞いた。晩、蔭鼎と蓬萊閣で晚餐をやって、モデルを  
さがした。藍君の宅にとまつた。

五月九日 木曜 雨 嵌、武

十時二十分帰宅。油絵を終つて、油をかけた。

五月十日 金曜 晴 台北、十、武

七時五十分で大竹氏、河野氏、尾家氏、小林氏を案内  
して頂双溪を経て武丹坑へ見に行った。六時帰宅。  
夜、司令部の副官來訪。スケッチ二三点持つてかへつ  
た。

五月十一日 土曜 晴 石底

十二時半で出北。藍君英声君三人で江山樓でモデルを頼む。

五月十二日 日曜 晴 台北

午前、藍君の宅の附近で四つ切【一】枚スケッチ。午后、鴛鴦の宅で彼女をスケッチしたが色彩とポーズがよく出来たと思った。八時過帰宅。

五月十三日 月曜 雨 十、武

十時十分で武丹坑へ行って猴硐へ廻って六時帰宅。晚、尾家氏を訪問。十七坑苦力頭等を頼んだ。

五月十四日 火曜 雨

九時半で部下三四人と一しょに叭噠港炭坑を見に行つて、七時帰宅。

五月十五日 水曜 晴 基

十二時半で出北。鴛鴦□□を四つ切にスケッチした。夜、台北に宿った。モデルの裸体を見たがよくなかった。

五月十六日 木曜 曇

台北から九時二十分で叭噠港へ行って請負の引継をして、五時帰宅。六時から日本亭で台銀支店長の送迎会があるので出た。

五月十七日 金曜 雨

七時五十分で猴硐へ行ってから武丹坑へ行って又猴硐へ来て六時帰宅。

五月十八日 土曜 曇

七時五十分で叭噠港へ行ってから台北へ廻って、例のモデルを三人で午后三時よりスケッチした。晚餐に別の女を呼んだが不合格でした。十時頃帰宅。

五月十九日 日曜 雨

七時五十分出北。台湾水彩画会出品受付をした。午后、石川先生の鑑査を、続ひて点数を決した。八時過帰宅。

五月二十日 月曜 曇

七時五十分で出北、三時帰宅。明治十九年の画を博物館へ持つて行った。晚、博愛医院の開業祝賀会に出た。芸妓と写生の約束をした。

五月二十一日 火曜 曇

七時五十分で猴硐へ行ってから武丹坑へ行って、六時帰宅。

五月二十二日 水曜 曇後雨

七時五十分で叭噠港へ行って十二時半で出北。モデルを画く予定だが夕立の為めに暗いのでやめた。水彩画会の発展策として先生に批評をかいて新聞に出すこと及水彩画会賞を与へる事を提出したが、賛成を得て実行に決定した。

五月二十三日 木曜 曇

七時五十分で猴硐を経て武丹坑へ行って三時帰宅。五時半で出北、脇坂氏を訪問したが、留守でした。英声君を訪問、打合をした。日英館に宿った。

五月二十四日 金曜 曇

早朝脇坂氏を訪問。叭噠港の報告をした。終日博物館で展覧会の準備を殆んだ\*一人でやったので非常に疲れた。八時過帰宅。

\* 編按：依原文筆跡辨識可能爲「殆んだ」

五月二十五日 土曜 曇

六時半で出北、展覧会に出た。十二時五十分で叭噠港へ行って四時半頃帰宅。

五月二十六日 日曜 雨

七時五十分で猴硐へ行って、十時で帰宅。十二時半で出北。水彩画展の片付をしてから陳育奇の開業祝宴に出て、八時四十五分の汽車で帰宅。

五月二十七日 月曜 雨

牧田会長巡視するので七時五十分で猴硐へ行って、六時帰宅。

五月二十八日 火曜 晴

十時十分で武丹坑へ行って、坑内を見て、六時帰宅。晩、山田氏を訪問した。

五月二十九日 水曜 晴

十時半で出北。後宮会社へ事ム打合に出た。午后モデルをかくつもりでしたが居らなかったので活動を見に行つた。夕方、石川先生を訪問。水彩画会の批評をパンフレットにし諸氏の感想を加へる事を相談した。

晩、江山樓で藍君、英声君の慰労会を催した。日英館に宿った。

五月三十日 木曜 晴

早朝、西川氏を訪問、武丹坑値下の免除を願った。塩月氏を訪問、研究所開設に付参考の談をきいた。一時五十分で呴唾港へ行って、五時帰宅。晩、山田氏來訪。

五月三十一日 金曜 晴

一時半で猴硐へ行って六時帰宅。□及小岩の杓子定規に憤慨した。出品画を返へし返事をした。

## 6月

---

六月一日 土曜 晴

牧田会長の帰京を見送りに行った。九時半で南港へ行って高火炎の祖母の会葬に出た。午后、北投へ行って四つ切一枚スケッチして新薈芳に宿った。

六月二日 日曜 曇

早朝北投から藍君の宅へ来て、十一時十分で帰宅。二時頃植棋君帰台、來訪された。

六月三日 月曜 晴

七時五十分で猴硐へ行ってから武丹坑へ行って、六時帰宅。

六月四日 火曜 晴

七時五十分で呴唾港へ行って、十二時出北。陳植棋君と午后鴛鴦を描きに行った。晩、江山樓で陳、藍、英声四人で懇親会をやり、七星画壇の解散をやった。終列車で帰宅。つかれ甚しい。

六月五日 水曜 晴

七時五十分出北。後宮から金を貰って、三時帰宅。

六月六日 木曜 晴

十時十分武丹坑へ支払に行った。顏欽賢氏を案内して、坑内を見せた。六時帰宅。

六月七日 金曜 晴 夕立あり

七時五十分で猴硐へ行って、午前は東三坑、午後は第三斜坑へ入って、六時帰宅。久振で入坑、疲労甚しかった。

六月八日 土曜 晴

十時十分で武丹坑へ行って三時帰宅。五時半で出北。夜、藍君の宅に宿った。

六月九日 日曜 晴 夕立あり

朝、双蓮付近で四つ切一枚、夕方、日清〔新〕公学校のわきで四つ切一枚スケッチしたが、よく出来なかつた。昼過、石川先生を訪問、研究生募集を新聞でやる様に頼んだ。

六月十日 月曜 晴

七時五十分で叭噠港へ行って、工賃下げの打合をした。附近で六号のスケッチ板に油絵で写生して、七時前帰宅。

六月十一日 火曜 晴

十二時半で出北。ダイヤの指環を主任の礼に買って、四時の汽車で猴硐へ廻って九時帰宅。洋画自由研究所の件夕刊に出た。

六月十二日 水曜 晴

十時十分で武丹坑へ行って、六時帰宅。晩、国崎氏を訪問、捲上積込機使用の事を頼んだ。

六月十三日 木曜 晴

七時五十分で叭噠港へ行って、工賃値下げを実行した。十二時出北。陳植棋君と阿勸をモデルにして油絵八号一枚かいた。十時帰宅。

六月十四日 金曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行って、六時帰宅。

六月十五日 土曜 晴

十時半で出北。モデルを描く予定でしたが、二人とも都合がわるいので夕方風景を油絵で八号かいた。藍君の家を [で] 晚餐、川口氏を訪問し、十時帰宅。

六月十六日 日曜 晴

早朝から昨日の油絵を補筆し、窓から駅を見た所を更に書 [描] いた。十時十分武丹坑へ行って三時帰宅。五時英声君久振で来訪、九時帰宅。

六月十七日 月曜 晴

七時五十分で叭哩港へ行って、正午出北、植棋、蔭鼎両君と午后鴛鴦を描きに行った。八号油絵一枚。植棋君と藍君をひやかしたが、神經質の全君とうとう心配して始 [初] めて怒り出した。夕方、江山樓で円山附近を見て、八号油絵一枚描いた。終列車で帰宅。

六月十八日 火曜 晴

十時十分で武丹坑へ行って、二時に猴硐へ行った。晩、三区事ム所で顏欽賢に招待されて終列車で帰宅。顏氏大変酩酊したので、家迄送って行った。宴会席で自分の為めに憤慨をもらしてくれたので愉快でした。

六月十九日 水曜 晴

七時五十分で叭哩港へ行って、十二時に出北。藍君を訪ね、一昨日の謝罪をした。お祭を見てクロッキー【し】たいが、大勢で余り暑いので四時で帰宅した。

六月二十日 木曜 晴

七時五十分で出北。後宮から金を受取って、十二時五十分で帰宅。

六月二十一日 金曜

第一斜坑起業費償還の件始末できた。十時十分で武丹坑へ支払に行って、六時帰宅。三時頃から大夕立が来た。

六月二十二日 土曜 晴 夕立あり

十時十分で猴硐へ行って、六時帰宅。第一斜坑愈々廢坑に決定。未だ着炭祝をしない間に廢坑の悲運に遭遇し何となく悲哀を感じた。

六月二十三日 日曜 晴

六時半で南港へ行って陳植棋君を訪ね、共に田舎の景を写生した（八号人体油絵）。午后共に出北。阿勸を

スケッチした。全大稍出来よかったです。終列車で帰宅。研究所の家主頑固な事に憤慨した。相田直彦から謝礼の画、式〔色〕紙に初夏の景を書き〔い〕たものが着いた。

六月二十四日 月曜 曇 夕立  
十時十分武丹坑へ行って、三時帰宅。相田氏に礼状を出した。

六月二十五日 火曜 晴  
七時五十分で叭噠港へ行って、正午出北。午后植棋君と一緒に鶯鶯をかいて、風景十二号大体だけ出来て仕上げを廿八日にする予定。夜、共楽座で天華を見た。日英館に宿った。

六月二十六日 水曜 晴  
七時五十分、妻子供二人を連れて出北。徐大頭の家へ久振に行った。中食後藍君の宅へ行った。八時十分帰宅。

六月二十七日 木曜 晴  
七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行っ

て、六時帰宅。川口氏と久振で会った。台炭の件、賛成された。

六月二十八日 金曜 晴

七時五十分で叭噠港へ行ってから出北した。午后鶯鶯を十二号に描いた。半成。七時帰宅。晩、山田氏を訪問した。

六月二十九日 土曜 晴

七時五十分で出北、研究所設備をやった。晩、石川先生を訪問、研究所の事等を報告した。画帖日本の部を貰った。申込者研究所開始の通知を出した。古賀春江の水彩画（十六切）を買った。

六月三十日 日曜 雨 夕立甚し

七時五十分で猴硐へ行って武丹坑へ廻って五時帰宅。

7月

七月一日 月曜 晴

十時半で出北、車中で野田氏夫婦に遇し蓬萊閣で中食。午后石膏像を買求めて研究所に備へた。午后五時蓬萊閣に集り、七時から研究所開所の宴会を開いた。集った人、石川先生、植棋、蔭鼎、英声、研究生二人、女番人。記念撮影をして、終列車で帰宅。

七月二日 火曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って武丹坑へ廻って三時帰宅。廣瀬病院へ行って、眼の診察を受けた。

七月三日 水曜 晴

十時半出北。鴛鴦を描いた。晩、研究所で石膏像をかけた。終列車で帰宅。

七月四日 木曜 晴

七時五十分で叭哩港へ行って正午出北。午后植棋と鴛鴦を描いた。さるまた一枚になってモデルになってくれたのに感心した。晩、研究所に行って十時帰宅。

七月五日 金曜 晴

七時五十分で出北。金を貰って十二時過帰宅。植棋君来宅、郭柏川君内地から帰台。共に晚餐をやって帰った。赤島社展覧会の打合をやった。猴硐三坑瓦斯大爆発。

七月六日 土曜 晴

七時五十分で猴硐へ行って、変災を見舞った。金百円同情して贈った。武丹坑へ支払に行って三時帰宅。

七月七日 日曜 晴

七時前に崁脚に行って、六時帰宅。

七月八日 月曜 晴

朝、銀行へ割引頼みに行った。十時十分武丹坑へ行って、台北へ廻って、研究所へ出て、終列車帰宅。暴風來た。

七月九日 火曜 雨

小暴風雨。終日室内に籠って休んだ。

七月十日 水曜 晴

七時半出発。猴硐、武丹坑へ行って、三時に出北。晩、研究所へ行ってから質屋へ利子入と半分受出した。五六年前の苦しさ思ひ出して感慨無量でした。台北に宿った。

七月十一日 木曜 晴

朝、州へ行って、土地台帳及図面を見た。午后植棋と鴛鴦の半裸体をかいた。晩、研究所へ行って、十時帰宅。

七月十二日 金曜 晴

七時半出発。猴硐、武丹坑へ廻って、三時半帰宅。

七月十三日 土曜 晴

植棋写生にくるので、他処へ行かずに家に居った。午后全君来宅、共に写生した。十五号の油絵をやった。

七月十四日 日曜 晴

五時四十分で石底二坑へ行って、六時半帰宅。

七月十五日 月曜 晴

十一時二十分で出北。午后鴛鴦を描く予定の処、植棋君遅く来たのでとうとうやめた。研究所へよって十時帰宅。

七月十六日 火曜 晴

七時半で猴硐及武丹坑へ行って、三時半帰宅。

七月十七日 水曜 晴

七時半で叭哩港へ行って、昼頃出北。植棋と鴛鴦の半裸体をかいた（八号人体）。夜、研究所へ寄って、十時帰宅。

七月十八日 木曜 暴風雨

朝は二十五号の下描をやった。午后は十二号と四つ切の水彩を描いた。夜、非常に疲労を感じて病気かと思った。

七月十九日 金曜 晴

七時半で猴硐へ行ってから武丹坑へ廻って、三時半帰宅。五時二十五分で出北。研究所へ行って、日英館に宿った。

七月二十日 土曜 晴

後宮から金を受取ってから鴛鴦の所へ寄って、クロッキーをやった。一時半の列車で帰宅。

七月二十一日 日曜 晴

七時三十分で猴硐へ行く。第一分坑の請負単価を決定。武丹坑へ支払に行って、三時半帰宅。

七月二十二日 月曜 晴

午前は三十号を描き始め、午后は二十五号を描いた。植棋君前日から来泊、いろいろの話をきいた。

七月二十三日 火曜 晴

十時で猴硐へ行く。国年巡視、共に昼餐をして、炭坑の発達策をきかれた。四時二十分で出北、後宮氏を訪問、姨子寮事業を頼んだ。晩、研究所を見てから藍君の宅に宿った。

七月二十四日 水曜 晴

台北から七時二十分で叭哩港へ来て、十一時過帰宅。午后、三十号の絵を描いた。

七月二十五日 木曜 晴

七月二十六日 金曜

\* 編按：本日無記述。

七月二十七日 土曜

\* 編按：本日無記述。

七月二十八日 日曜 晴

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。五時二十五分で出北、脇坂氏を訪問、金瓜石の仕事を頼んだ。晩、石川先生を訪問し、亜細亞ホテルに泊った。

七月二十九日 月曜 晴

七時二十分の列車で叭哩港へ行って、十時半で出北。植棋と昼食後、藍君を訪問したのち蓄音機を買った。七時十分の列車で帰宅。子供等レコードを聞いていづれも大喜び。

七月三十日 火曜 晴

石川先生上京の序早朝来宅、画を批評して下【さ】った。十時で武丹坑へ行って二時半で出北、横山虎次氏を訪問、田中氏に手紙を出すことを頼んだ。晚、池田氏に招待されて終列車で帰宅。

七月三十一日 水曜 曇

十時の列車で金瓜石に行って、田中清氏に面会、六時帰宅。

8月

八月一日 木曜

七時半で叭噠港へ行って、十一時出北。午后、英声と阿勉を描いた（水彩）。稍上出来。十時帰宅。

八月二日 金曜 晴

十時で武丹坑へ行って、三時に猴硐へ廻って、六時半帰宅。顏国年氏に鮫島氏に学資補助を頼んだ。

八月三日 土曜 曇

七時半で五堵へ行って四つ切一枚スケッチ。午后、英声と阿勉の半裸体を描いたが不出来でした。八時過帰宅。

八月四日 日曜 晴

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時帰宅。

八月五日 月曜 晴

七時半出北、金を受けてから一時半の汽車で帰宅。支那曲のレコードを買った。

八月六日 火曜 晴

十時で武丹坑へ支払に行って三時帰宅。頭痛がするので何もしなかった。

八月七日 水曜 晴

七時半で叭噠港へ行って十一時過出北。午后、植棋と新公園で榕樹を描いた。四つ切水彩。晚餐に宝琴を呼んだが、始〔初〕めて気に入ったモデルを得たので満足した。十時帰宅。

八月八日 木曜 曇

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時帰宅。

八月九日 金曜 曇

十時で出北。午后、研究所で植棋と阿罔をモデルにして四つ切一枚かいた。十時帰宅。

八月十日 土曜 雨

州調停課の用で七時半で出北。午后、宝琴の家で彼をモデルにして四つ切一枚スケッチした。稍出来がよかつた。七時帰宅。

八月十一日 日曜 雨

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

八月十二日 月曜 雨

十一時基隆炭礦から賞与金を貰った。猴硐から六十円、崁脚から百三十円。十二時四十分の列車で出北。三四人の芸者とも差支があるので描けなかった。大きな石膏像到着、研究所へ備へて置いた。

八月十三日 火曜

七時半で猴硐へ行って、武丹坑の杉田前田両氏を案内して坑内採掘を見た。午后三時半帰宅。坑内で頭を少しわって血を流した。

八月十四日 水曜 晴

十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

八月十五日 木曜 晴

十時で出北。午后、英声君と一緒に阿勸を描いた。稍面白く出来た。研究所へ寄って十時帰宅。

八月十六日 金曜 晴

七時半で五堵へ行って一枚（四つ切）スケッチして、  
叭哩港へ行って、午后植棋と一しょに出北。降雨の為  
め光線暗いから写生出来なかった。七時十分で帰北。  
植棋から艶福話を聞く。

八月十七日 土曜 曇

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

八月十八日 日曜 晴

七時半出発、澳底へ武丹坑の会社員と海水浴を行った。午后一枚、午后一枚 \* 水彩を描いて六時半帰宅。

\* 編按：原文重複兩次「午后一枚」

八月十九日 月曜

七時半で汐止街へ行って、四つ切一枚スケッチ。十二時過植棋と出北、芸者を描く予定でしたが、非常に暑かったのでやめた。五時頃研究所で楊佐三郎君と三人で展覧会の打合をやった。夜、藍君の宅に宿った。しばらく振で彼の作の進歩したのを見て欣しかった。自分の退歩したのに恥入った。

八月二十日 火曜 晴

十一時十分で帰宅。

八月二十一日 水曜 晴

十時で武丹坑へ支払に入って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

八月二十二日 木曜 晴

七時半で出発、叭哩港へ行ってから汐止で四つ切一枚スケッチ、午后出北。

八月二十三日 金曜 晴

八時五十五分で出北、炊事婦の件で汐止で [に] 行き、三時頃七堵で四つ切一枚スケッチ、六時頃帰宅。

八月二十四日 土曜 晴

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。  
事業上の不平から頭痛甚しく、なにもしなかった。

八月二十五日 日曜 晴

七時半で五堵へ行って、四つ切一枚スケッチしてから

台北へ出て、午后英声君と宝琴を描いた。

八月二十六日 月曜 晴

七時半出北、赤島社展の準備をした。

八月二十七日 火曜 晴

十時で武丹坑へ行ってから、猴硐へ廻って六時帰宅。

兄君愷と主任間の感情衝突を心配した。

八月二十八日 水曜 晴

七時半で叭噠港へ行って正午出北、赤島社展の準備をした。

八月二十九日 木曜 晴

九時の列車で出北、赤島社展の準備をした。会場博物館の交渉をし直した。晩、江山樓で新聞記者を招待した。十時帰宅。

八月三十日 金曜 晴

七時半で出北、赤島展の準備を行った。昼前同人と共に総督府へ行って、内務、文教両局長を招待した。

八月三十一日 土曜 晴

九時出北、赤島展に出た。午后、藍君を見舞。十時帰宅。

9月

九月一日 日曜 晴

午后二時、石川先生内地から帰台したので出迎に出た。

九月二日 月曜 晴

十時に武丹坑へ行って、三時猴硐へ来て、晚野田主任を訪問。先の件に就いて諒解を求めた。

九月三日 火曜 晴

七時半で叭噠港へ行ってから出北、赤島展へ行【っ】て、午后画をかたつけた。晩、カフェークロネコで同人の懇親会をやった。

九月四日 水曜 晴

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

九月五日 木曜 晴

七時半で出北、一時半で帰宅。

九月六日 金曜 晴

十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

九月七日 土曜 晴

七時半で叭噠港へ行ってから出北、午后研究所で藍君と一緒に阿岡をスケッチした。始〔初〕めて全裸体を描いた。コックス紙大。

九月八日 日曜 晴

七時半で猴硐へ行ってから、武丹坑へ廻って六時半帰宅。武丹坑請負賃値上を要求したが、川口氏に拒絶された。彼の不道徳を憤慨した。

九月九日 月曜 晴

九月十日 火曜

\* 編按：本日無記述。

九月十一日 水曜

\* 編按：本日無記述。

九月十二日 木曜

\* 編按：本日無記述。

九月十三日 金曜

\* 編按：本日無記述。

九月十四日 土曜 晴

七時半で叭噠港へ行って十一時過出北、十二時四十五分で淡水へ行って、コックス全紙に中学校附近を写生したが、調子がくるって不出来でした。

九月十五日 日曜 晴

七時半で猴硐へ行ってから、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

九月十六日 月曜 晴

十一時十分で出北、英声君と午后公館へスケッチに行った。曇ったので台北平野を見る所をかゝずに川上を見た所を四つ切に描いた。晚、研究所へ寄って十時帰宅。

九月十七日 火曜 晴

午前は公館のスケッチを大きく（半切）かきのばし、午后石硬港を半切にスケッチした。

九月十八日 水曜 晴

城隍爺祭で親戚等来宅。前日来描きかけの画をしあげた。

九月十九日 木曜 曇後雨

七時半で叭噠港へ行ってから、台北へ出て公館を写生する予定でしたが、天気あやしいので三時半帰宅して、コックス全紙に雨景を描いた。

九月二十日 金曜 曇

七時半で出北、後宮から金を貰った。法院で□□□の事件の審問があった。

九月二十一日 土曜 晴

陳植棋上京、四つ切四枚半切二枚を託して、岡田先生に批評を仰いだ上、帝展出品を頼んだ。十時武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

九月二十二日 日曜

七時半で出北。午后、英声君と公館へ写生に行った。  
四つ切一枚及十号人体の一部をかいだ。一時間余自動車を待った為、帰宅おそくなつた。

九月二十三日 月曜 晴

七時半で猴硐へ行ってから、武丹坑へ廻って三時半帰宅。車中で二人の女客に会ひ、モデルとしてクロッキーへやつた。

九月二十四日 火曜 晴

午后一時過、石川先生来基、司令部を写生に行かれた。六時四十分で帰宅せられた。陳承潘に学資金五十円電信為替で送金した。

九月二十五日 水曜 晴

十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。  
夜、太田氏を訪問した。

九月二十六日 木曜 晴

十一時二十分で出北、医者の診療を受けたらとんだ病氣に罹って閉口した。芸術の為になつたので残念だった。

九月二十七日 金曜 曇

武丹坑お祭なので、お客様を招待した。事ム所の者等二〇。六時半帰宅。

九月二十八日 土曜 晴

十二時四十五分で出北、医者に就いた。四時五十分帰宅。

九月二十九日 日曜 晴

十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

九月三十日 月曜 晴

西村坑下請負契約成立したので安神〔心〕した。午后二時二十分で出北、藍君を訪問した。研究所へ寄つて、十時帰宅。

10 月

十月一日 火曜 曇

病氣静養。□黃龍上京するので、見送に船へ行った。

十月二日 水曜 晴曇

病氣家で休養。午前、妻を連れて福永医院へ診察受けに行った。午后二時二十分で出北。陳植棋来信、岡田先生及吉村先生の評、「田舎臭くな【く】、東京に居る人がかゝれたやうだ。水源地四つ切はすばらしい。意見は小生と一致」との事。

十月三日 木曜 晴

十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月四日 金曜 曇

十二時四十五分で出北、治療を受けてから、第一高女の展覧会を見に行った。研究所へ寄ったが、疲れたので藍君に頼んで七時十時〔分〕で帰宅。

十月五日 土曜 晴

七時十分の急行で出北、金を受けてから十時二十五分で帰宅。

十月六日 日曜 晴

九時で出北、治療を受けて一時帰宅。

十月七日 月曜 曇

十時で武丹坑へ支払に行って、三時半帰宅。晩、西川純氏来宅、所蔵の画を見せた。

十月八日 火曜 晴

十二時四十五分で出北、治療を受けて、夕方石川先生を訪問。晩、研究所へ寄って十時帰宅。養女を貰った。

十月九日 水曜 晴

十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月十日 木曜 晴

十二時四十五分で出北、治療を受けてから植物園で四つ切一枚描いた。研究所へ寄って、十時帰宅。

十月十一日 金曜 晴

十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。植棋君から来信、岡田先生及吉村先生の批評を知らせてくれた。夜中、電報の来ないのに失望した。

十月十二日 土曜 晴

九時十五分、陳植棋から陳澄波、藍蔭鼎二人帝展入選の電報がついた。自分の努力の足らぬのを恥じて、大に勉強すべき事を悟った。十二時四十五分で出北。晩蓬萊閣で藍君の入選祝賀会を開いた。石川師、英声君を陪賓にし、藍君の母堂と皆五人。植棋氏に落選の慰安及督励の手紙を出した。

十月十三日 日曜 晴

十二時四十五分で出北、植物園で半切一枚描いて七時帰宅。

十月十四日 月曜 晴

十時で武丹坑へ行って、三時半帰宅。石川師の息、滋彦入選したので祝電及御祝金三十円を贈った。

十月十五日 火曜 晴

十二時四十五分で出北、治療を受けた。

十月十六日 水曜 曇

十時で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十月十七日 木曜 曇

七時半で青桐坑へ台陽社に招待されて行った。六時帰宅。

十月十八日 金曜 晴

十二時四十五分で出北、永楽座の裏通を半切に描いた。八分通出来た。晩、研究所へ寄って十時帰宅。

十月十九日 土曜 晴

朝、かきかけの半切の水彩に筆を加へた。十一時二十分で出北。午后一時半、第一高女の作法室で藍君の入選祝賀茶話会があったので出席した。親友として祝詞を述べなかったのはもの足りなかった。夕方、前日描きかけの半切に筆を加へた。八時十分帰宅。

十月二十日 日曜 晴

七時半で出北、治療を受けた。

十月二十一日 月曜 晴

七時半出北、後宮から金を貰って十二時十分で帰宅。

十月二十二日 火曜 曇

十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月二十三日 水曜 曇

十二時四十五分で出北、治療を受けた。午后、大稻埕で四つ切一枚スケッチした。

十月二十四日 木曜 曇

七時半で叭哩港へ行って十一時で出北、治療を受けて、午后植物園で四つ切一枚スケッチした。研究所へ寄って、十時帰宅。

十月二十五日 金曜 曇

七時半で猴硐坑へ行って、武丹坑へ廻って十二時半帰

宅。会社員来宅を待ったが来なかった。

十月二十六日 土曜 曇

十一時二十分で出北、治療を受けてから植物園で四つ切一枚描いたが、木を [が] 青過ぎた。八時十分帰宅。

十月二十七日 日曜 晴

午前、家から見た赤き山を主として半切を描いた。山だけ出来た。午后、司令官々邸を十五号の油絵に描いた。雨が降って來たのでかきかけで帰った。

十月二十八日 月曜 晴

午前、昨日描きかけた港の半切に又描いた。船を多く入れた為め主眼点の山が犠牲になった気がする。十一時二十分で出北、二時過から河溝頭で半切一枚描いたが、明るい処が多くて影が少ないので不満でした。七時帰宅。

十月二十九日 火曜 晴

七時半で叭哩港へ行ってから出北、午后河溝頭で十二号の水彩カンバスに一枚スケッチした。

十月三十日 水曜 晴

十時で武丹坑へ、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月三十一日 木曜 晴

十時自動車で出北、治療を受けたから写生に行く予定でしたが、感冒の気分で帰宅した。

11月

十一月一日 金曜 晴

感冒でねころんた [だ]。

十一月二日 土曜 晴

病氣引籠中

十一月三日 日曜 晴

病氣引籠中

十一月四日 月曜 晴

感冒稍よくなつたので出北、治療を受けた。

十一月五日 火曜 晴

七時半で出北、後宮から金を貰って、午后河溝頭でコックス全紙に一枚スケッチした。

十一月六日 水曜 晴

十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰

宅。野田主任辞表提出した事を聞いて惜しかった。

十一月七日 木曜 晴

九時で出北、夕方石川先生を訪問して出品画の批評を聞いた。陳植棋等に頼まれた画を出品した。

十一月八日 金曜 晴

七時で出北、出品画を訂正したが頭痛はげしくなったので、藍君に搬入を頼んで三時半帰宅。

十一月九日 土曜 雨

病氣引籠中

十一月十日 日曜 雨

病氣引籠中。九時出北、治療を受けて十二時十分で帰宅。

十一月十一日 月曜 曇

岳母、鰯魚坑へ帰った。十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十一月十二日 火曜 曇

朝八時頃、裏通の一点入選した通知を受けたが、恩師の情で入ったと感謝すると同時に恥しく思ひ、大に勉強せざるを得ないと感じた。十一時廿分の汽車で出北、藍君を訪問して七時十分で帰宅。

十一月十三日 水曜 曇

家で静養した。

十一月十四日 木曜 曇

十一時二十分で出北、治療を受けて一時半の汽車で帰宅。

十一月十五日 金曜 曇

十一時二十分で出北、植棋君と台展を見て〔に〕行った。晩、植棋、蔭鼎両君と石川先生を訪問し、将来大に勉強すべき事を聞されて、七時十分の汽車で帰宅。

十一月十六日 土曜 晴

夕方、赤島社同人陳植棋、蔭鼎、英声、佐三郎、廖繼春、李梅樹君来宅、台展を見て感【想】を述べた。九時過、一同帰って行った。

十一月十七日 日曜 晴

七時半で出北、治療を受けてから台展へ行って赤島社同人と台展画の合評会をやるべく、くはしく見た。城内の江山樓支店に集って中食をしてから、一同懇親会をやった。三時半帰宅。大変疲れた。

十一月十八日 月曜 曇

十時の汽車で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十一月十九日 火曜 曇

九時の汽車で出北、治療を受けてから新聞社で張純甫主催の支那書画展を見て、安い画二幅求めた。一時半の汽車で帰宅。感冒の気あって夜吐いた。

十一月二十日 水曜 晴

九時の汽車で出北、後宮から金を貰って十二時十分の汽車で帰宅。車中で三回嘔吐した。晩まで数回吐いたので非常に苦しかった。

十一月二十一日 木曜 晴

礼興を武丹坑へ支払にやった。病氣床で呻吟した。

十一月二十二日 金曜

病氣静養中

十一月二十三日 土曜

病氣静養中

十一月二十四日 日曜 雨

病氣静養中

十一月二十五日 月曜 晴

感冒稍よくなつたが、例の病氣あともどりしたので梅野病院へ治療を受けに行つたが、不親切で気持悪かった。夕方、藍君懇に見舞に来てくれた。

十一月二十六日 火曜 晴

久保に診察を受けた。午后、植棋君見舞に来てくれた。気分よかつたので画を出して批評を乞ふた。

十一月二十七日 水曜 晴

家で静養。晩七時、四男出生した。

十一月二十八日 木曜 晴  
家で静養。

十一月二十九日 金曜 晴  
気分よほどよかったです。

十一月三十日 土曜 小雨  
気分少しわるかった。

## 12 月

---

十二月一日 日曜 晴  
十二時四十五分で出北、博物【館】で二師の画展及一師での画展を見て、植棋と石川先生を訪問して、八時過帰宅。

十二月二日 月曜 晴  
十時で武丹坑へ久振に行って、二時に瑞芳貯炭場へ廻って石炭発送督促をして、六時半帰宅。

十二月三日 火曜 晴  
九時で久振で叭哩港へ行って、正午出北。夕方植棋君と藍君を訪ね、晩研究所へ寄って八時過帰宅。

十二月四日 水曜 晴  
九時五十三分で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十二月五日 木曜 晴  
七時半で出北、後宮から金を貰って十二時十分で帰宅。張朝君児童を引率して修学旅行に来たが、時間の

都合で会へなかった。

十二月六日 金曜 晴

十時で武丹坑へ支払に行って、三時半帰宅。

十二月七日 土曜 晴

蔡海涛から台北に来てゐる知らせが来たので、午后会ふべく出北したが、外出して会へなかった。

十二月八日 日曜 曇 雨

十一時二十分で出北、蔡海涛君を訪問。五時艋舺三仙樓で国師同窓会があったので出席した。十時帰宅。

十二月九日 月曜 雨

七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って、三時半帰宅。蔡海涛君来遊の約束でしたが、とうとう来なかつたので失望した。

十二月十日 火曜 曇 小雨

九時で叭噠港へ行ってから出北、野田氏を訪問。壳炭を頼んだ。夕方、藍君と植棋君三人石川先生を訪問し

た。晚、研究所へ寄って十時帰宅。

十二月十一日 水曜 雨

家で静養。

十二月十二日 木曜 晴

十時で武丹坑へ行って、三時三十分汽車で台北へ廻って、七時十分で帰宅。御歳暮品を註文した。

十二月十三日 金曜 晴

午后、山田氏壳炭の件で來訪。続いて川口氏来宅、進退問題提出準備の話を聞いた。晚、台銀貸付係を訪問、借金を頼んだが銀行の方針として許さぬ事を聞いた。失望した。

十二月十四日 土曜 晴

朝、国年氏を訪問、姨子寮借地料値下を願ったところ、快く承諾してくれた。午后四時前、国年氏の上京を見送りに行ってから出北、辯護士に養女事件の証人に就いて打合せた。七時十分で帰宅。

十二月十五日 日曜

\* 編按：本日無記述。

十二月十六日 月曜 晴

十時で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十二月十七日 火曜 雨

晩、猴硐で三区の忘年会に出席した。

十二月十八日 水曜 晴 曇

九時で叭噠港へ行ってから出北。

十二月十九日 木曜 晴

午后出北。脇坂、西川両氏に歳暮品及礼を持って行った。

十二月二十日 金曜 晴

七時半で出北、後宮から金を受取って十二時十分で帰宅。

十二月二十一日 土曜 晴

十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十二月二十二日 日曜 晴

午后出北、晚藍君を訪問、十時帰宅。川口氏に歳暮及礼を持って行った。

十二月二十三日 月曜 曇

十時で武丹坑へ行って、二時過の列車で帰ったが、猴硐で線路の故障で六時半にやうやく帰宅。

十二月二十四日 火曜

\* 編按：本日無記述。

十二月二十五日 水曜 晴

八時五十五分で出北、午后十二時四十五分の台北発列車で石川先生研究所生徒等と士林へ写生に行って、晚研究所で忘年茶話会を開いた。二ヶ月振で画筆を取ったので、手が強って思ふやうに行かなかった。四つ切一点、八つ切二点かいたが、最後の八つ切一点が気に入った。

十二月二十六日 木曜 晴

八時五十分で叭哩港へ行ってから台北へ出た。晩、窓吟宅へ行って合益の計算をやった。

糖壳炭の打合をした。三時半帰宅。

十二月二十七日 金曜 晴

九時五十三分で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十二月二十八日 土曜 晴

十二時四十五分で出北、治療を受けて四時半帰宅。  
晩、窓吟宅に行って合益の計算をした。

十二月二十九日 日曜 雨

十二時四十五分出北、午后藍君を訪問、六時帰宅。晩、尚志会の忘年会に出席。大朝新聞社発行の常識講座を四部買った。

十二月三十日 月曜 雨

十時で武丹坑へ行って、忘年会をやって六時半帰宅。

十二月三十一日 火曜 雨

十時出北、田中清に画を贈った。野田を訪問、台灣製

倪蔣懷日記 1931 年

發行人 | 館長駱麗真

日文釋讀、校對 | 鈴木惠可、徐聖凱、莊慈、廖春鈴

執行編輯 | 莊慈

美術設計 | 胡若涵

數位出版日期 | 中華民國 114 年 11 月

發行所 | 臺北市立美術館

104227 臺北市中山區中山北路三段 181 號

電話 | (02) 2595-7656

版權所有 | 臺北市立美術館

文字版權所有 | 釋讀者

\* 為尊重智慧財產權，參考使用需標示「釋讀者姓名」

年六和昭

# 昭和用箋記



西曆 1931 年七月至翌年一月

西曆 1931	日月火水木金土 25/1	舊曆 20	日月火水木金土 20
一月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
二月	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
三月	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
四月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
五月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
六月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
七月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
八月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
九月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
十月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
十一月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
十二月	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	● ● 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

大政國民出版社 東京

## 編輯凡例

- 一、日記原文無標點，為便於讀者理解特加標點符號。
- 二、文中日文漢字統一使用「日本新字體漢字」。
- 三、為求版面統一，文中內容皆不換行。
- 四、原文標記刪除的部分（作者因書寫有誤而刪除者），一律刪除。
- 五、文中「四つ切」、「八つ切」之「つ」，因平假名與片假名之大小字「つ」、「っ」、「ツ」、「ッ」皆有出現，為方便讀者閱讀，統一使用平假名大字「つ」。
- 六、文中如有漏字，以【】補之。
- 七、文中如有無法辨識的字，以□標示。
- 八、文中如有錯字，更正於後之〔〕內。
- 九、1931 年日記因作者未逐日書寫，故本書僅收錄具書寫內容之日期。

1月

一月一日 木曜 晴

九時十一分で猴硐、武丹坑へ廻礼に出て、五時半帰宅。年始状の返信をした。

一月二日 金曜 晴

十時頃池田氏來訪。李邱來訪。十一時半濱口靈師の治療を受く。夕方八堵へ行き、家を見て造作の間取を計画す。

一月三日 土曜 晴

八時過に叭噠港へ行ってから出北。濱口の治療を受けてから、藍、英声両君を訪ね、夕方野田氏を訪問、仲裁の早かれん事を頼む。晩、窓吟を訪ね、転宅を予告した。

一月四日 日曜 晴

昼頃濱口氏の施術を受けた。午后、寒骨の気がして寝た。

一月五日 月曜 晴

昼頃迄やすんで又濱口氏の施術を受く。午后、洋画の所有数を調べ目録を作る。

一月六日 火曜 雨 寒

美術雑誌の数を調べ、貸借対照表を作る。万里二坑第一分坑の増区を尾家氏に頼む。

一月七日 水曜 雨

八時六分で出北、後宮より叭噠港石底の請負賃を受く。

一月八日 木曜 雨

九時十一分で猴硐へ行き、武丹坑へ廻って、五時半帰宅。

一月九日 金曜 曇 寒

八時六分で叭噠港へ行き、昼帰宅。寒気甚しく、七星、大屯山に広く降雪。

一月十日 土曜 曇 寒

八時五十三分で出北、後宮より武丹坑請負賃を受く。建物会社の土地月賦買入を予約す。藍君を訪問し、研究所休止の事を打合す。二時過、石川先生を訪問、研究所休止の事を話す。河野菱風の画を貰ふ。

一月十一日 日曜 雨 寒

十一時で武丹坑へ支払に行って、五時半帰宅。感冒頭痛甚しい。万里二坑一分坑増区願書を草案す。

一月十二日 月曜 雨 寒

風邪で休む。昼前、余逢時、李邱、野田氏来宅。午后、合益公司及貯炭場の精算をした。基隆社へ万里二坑一分坑増区願書提出。

一月十三日 火曜 雨 寒

寒氣甚しい。許に倉田様に万里二坑一分坑電力捲揚設備を打合せさせた。夕方から東洋画の本を読む。

一月十四日 水曜 曇 寒

八時六分で叭噠港へ。昼過出北。後宮より千円前借。四時藍君を訪ね、研究所閉止の状況を聞き、未払金を

払ふ。研究生後藤とみ子に会ひ、閉止の理由及今後の計画を話す。六時帰宅。晩、池部氏を訪問、万里二坑一分坑増区を頼む。狩野派の画を見せて貰った。

一月十五日 木曜 小雨

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。晩、窓吟宅で合益の精算を行ひ解散し、基隆社の債権を赤丸に譲り、皆に支払って貰ふ事にした。自分も千円貰るので旧年末の苦しみ幾分か緩和されてうれしかった。

一月十六日 金曜 曇 晴

六時五十八分で菁桐坑へ支払に行って、五時半帰宅。晩、林朝宝と共に国年氏を訪問、二号炭斤先料免除を頼んだ。

一月十七日 土曜 小雨 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、三時帰宅。川口氏に石底二坑貯炭の事を返事した。

一月十八日 日曜 小雨

六時五十八分で暖々へ行って、八時五十分で出北。野

田氏を訪問、壳炭を頼む。大橋頭へ対聯の表装をさせ、純甫に書を依頼し、石川先生訪問して、画を五枚わけて貰った。晚、江山楼で後宮の新年宴会に出て十時帰宅。

一月十九日 月曜 晴 寒

十一時十五分で武丹坑へ行って五時半帰宅。養女の実母来宅。

一月二十日 火曜 晴 寒

八時六分で出北、後宮より金を受く。十一時五十分で帰宅。

一月二十一日 水曜 晴 暖

九時十一分で猴硐へ行ってから、武丹坑へ支払に行って、三時帰宅。晚、顔窓吟の生日会に招待された。

一月二十二日 木曜 晴 暖

八時六分で叭噠港へ行って、十二時で出北。野田氏を訪問、李建興の不誠意を話す。晚、脇坂氏を訪問、十時帰宅。

一月二十三日 金曜 晴 暖

十一時十五分で猴硐へ行って、次の列車で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

一月二十四日 土曜 晴 暖

午后一時二十分で妻と八堵へ行って家を見た。

一月二十五日 日曜 晴 暖

小野寺警部、鎌倉警部補を見送った。九時五十五分で出北、野田氏を訪問、李氏の事件を打合せた。三時半帰宅。

一月二十六日 月曜 曇 寒

八時六分で叭噠港へ行って、十二時過で出北。野田氏を訪問、李氏事件を打合す。

一月二十七日 火曜 雨 寒

早朝、太田氏を訪問、李氏事件の仲裁案を聞き、九時五十五分で出北。野田氏に報告。三時帰宅。

受信 | 陳植祺

一月二十八日 水曜 曇 暖

八時六分出北、野田氏を訪問。昼頃安保弁護士に李氏事件の鑑定を求む。三時帰宅。太田氏の仲裁案に承諾、西村氏にも承諾の印を受く。

一月二十九日 木曜 晴 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、川口氏に李建興の件を報告し、一時五十分で出北。野田氏に李に調印する様頼んだ。

一月三十日 金曜 晴 暖

午前、浦野氏來訪。李水氏來訪、李氏事件円満解決を勧めらる。正午、林秋坤の母堂の葬式に会葬。

一月三十一日 土曜 晴 暖

十二時二十五分で出北、野田氏を訪問。

2月

二月一日 日曜 晴 暖

六時五十八分で石底へ支払に行って、五時半帰宅。

二月二日 月曜 晴 暖

八時六分で出北、野田氏を訪問、李氏不調印を話す。十一時過帰宅。午后一時二十分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。晚、倉田氏を訪問。

二月三日 火曜 晴 暖

武丹坑の管卸高落したので心配で、六時五十八分で見に行って、十二時四十分帰宅。晚、小林慶作様を訪問。午后一時過、楊佐三郎君來訪、研究所継続の事に就いて相談があつた。

二月四日 水曜 晴 暖

八時六分で叭噠港へ行って、十二時帰宅。午后、又八堵へ家を見に行った。

二月五日 木曜 晴 暖

八時六分出北、野田氏を訪問。後宮から金を受取つて、二時四十分帰宅。

二月六日 金曜 雨 寒

十一時十五分で武丹坑へ支払に行って、五時半帰宅。

二月七日 土曜 雨 寒

十二時二十五分出北、倪炳煌に御祝を持って行った。図書館へ美術の書借出に行ったが、時間前とて出来なかったのは残念だった。川口氏へ御祝を持って行った。夕方、藍君を訪問、七時半帰宅。藍君からポケット三脚を貰った。

二月八日 日曜 雨 寒

十二時二十五分出北、川口氏及森氏を訪問した。六時帰宅。アトリエ社へ書籍を注文した。

二月九日 月曜 晴 暖

九時十一分で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って、五時半帰宅。晚、李建興来宅。

二月十日 火曜 雨 寒

八時五十三分で叭哩港へ行って、午后出北。図書館から本を借り出す。野田氏を訪問。藍君へ本を返へして、六時帰宅。

二月十一日 水曜 雨 寒

六時五十八分で菁桐坑へ行って、使用人に年末賞与をやった。三時帰宅。

二月十二日 木曜 雨 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

二月十三日 金曜 雨 寒

八時六分出北、紺家請求事件で法院へ行く。次回三月十一日。後宮から金を九仟円貰って、一時五十七分で帰宅。

二月十四日 土曜 曇 寒

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

二月十五日 日曜 晴 暖

八時六分で出北、張純甫から書を貰って、表具屋へ表裝にやった。十二時帰宅。午后、時津氏を訪問。

二月十六日 月曜 前晴后雨 暖

旧暦の大晦日で山へ行かず而在宅。九時梶原氏に姓名鑑定して貰ったが、吉で三十九才から積極的に事業をやるべく、四十二才には手控へ、四十五才から四十八才迄が大發展する事を聞いた。晩、貸借対照表を作つて資産状態を見た。

二月十七日 火曜 雨 寒

旧元日在宅。午前デッサン三枚、午后水彩一枚写生した。久振で手が鈍くなった。陳植棋に手紙をかいだ。

二月十八日 水曜 雨 寒

半切の水彩を描きかけたが、気分がわるいので出来なかつた。午后ねた。

二月十九日 木曜 雨 寒

木炭全紙に墨絵をかいだ。

二月二十日 金曜 雨 寒

八時六分出北、後宮から請負賃を貰って、十二時で叭噠港へ行って、新年宴会を開いて、十時帰宅。

二月二十一日 土曜 雨 暖

十一時十五分で武丹坑へ支払に行って、五時半帰宅。

二月二十二日 日曜 雨

八時六分で出北、野田及脇坂を訪問、甜粺を上ぐ。午后、藍君を訪問。墨絵の骨法を共に研究する約束をした。

二月二十三日 月曜 雨 寒

吳万生請求事件、今朝調停出張所で尋問があった、林田氏、二百円で和解を申込んだ。一時二十分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。東京へ画箋紙を注文した。

二月二十四日 火曜 雨 寒

八時六分で叭噠港へ行ってから会社へ寄つて、藍君に眼病の処方箋を与へた。午后四時過帰宅。

二月二十五日 水曜 雨 寒

十一時十五分で武丹坑へ行って、二時半帰宅。午后から所得税調査官が来た。

二月二十六日 木曜 雨 寒

六時五十八分で十分寮へ行って、派出所へ行って保正胡水田に子孫系統証明をして貰った。顔登燐の宅で中食後、青桐坑二坑へ行って、五時半帰宅。美術新論注文した。

二月二十七日 金曜 雨 寒

八時六分で出北、四叔を訪ね、媽祖の利子を払ふべく頼んだ。□□叔をも訪問。午后、野田、藍両氏を訪問。夕方、石川先生を訪問。晩、脇坂氏を訪問。十時帰宅。

二月二十八日 土曜 曇 寒

陳植棋帰台、迎に出た。楊君も佐藤君も出た。妻子供と鱗魚坑へ帰る。岳母の一年祭をする。

3月

三月一日 日曜 雨 寒

八時五十四分で出北。出口王仁大本教主の書画展覧会を見に行った。藍君を訪問して、一時過陳植棋を訪問、デッサン四枚を土産に貰って、四時過帰宅。

三月二日 月曜 晴 暖

午前、呉万生の事件で調停課出張所へ出頭。午后一時十分で出北、図書館へ書物借りに行って、五時帰宅。

三月三日 火曜 晴 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

三月四日 水曜 雨 寒

八時五十三分で叭哩港へ行って、三時過出北。後宮合名会社へ行き、晚脇坂氏を訪問。九時帰宅。夕方、野田氏を訪問、李建興の事件を打合す。

三月五日 木曜 曇 暖

八時六分で出北、一時帰宅。

三月六日 金曜 晴 暖

九時十一分で猴硐へ行って、武丹坑へ支払に行って、五時半帰宅。礼興久振に来宅。母姉の生日祝に服を贈る事にした。

三月七日 土曜 雨 寒

八時六分で叭噠港へ行って、十二時四十七分で南港へ行って、陳植棋氏を訪問。赤島社展及研究所の件に就いて打合せた。七時帰宅。

三月八日 日曜 前晴后雨 寒

十二時二十五分で出北、川口氏を訪問。台日社及旧序舎での日本画展覧会を見て、一点買った。藍君を見舞に行った。九時帰宅。

三月九日 月曜 雨 寒

午前□時 \* で吳万生の事件で調停出張所へ出頭、毎月五円宛返却の条件で解決。

\* 編按：此處似漏寫確切時間。

三月十日 火曜 雨 寒

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

三月十一日 水曜 晴 暖

□時 \* 紺家の事件で法院へ出頭。午后、野田氏を訪問。夕方、藍君を訪問した後、石川先生を訪問。研究所の件等を打合せた。午后、州へ所得税の件で出た。

\* 編按：此處似漏寫確切時間。

三月十二日 木曜 晴 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

三月十三日 金曜 晴 暖

八時六分で叭噠港へ行って、一時半出北。英声君を訪問した後、脇坂様を訪問、七時半帰宅。

三月十四日 土曜 曇 寒

八時六分出北。民事調停で林金虎の□代千五十円を七年一月から毎月五十円宛返す事に決定。午后一時二十分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

三月十五日 日曜 晴 暖

八時六分で出北。旧序舎での独立美術展を見に行つたが、貧弱なのに失望した。藍君を訪問した後、正午江山樓で国師同窓会があるので出席、三時散会。四時

頃、陳植棋君を台北病院で見舞。七時帰宅。

三月十六日 月曜 晴 暖

朝九時過、石川先生写生に来宅、二時帰北せらる。脇坂氏上京するので見送に出た。

三月十七日 火曜 晴 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

三月十八日 水曜 雨 寒

六時五十八分で礁溪へ行った。脇屋敷に会ひたいが、雨天の為め止めた。胡田鴨を尋ね、林縛の石炭六車に就て調査、楽園で昼食、十二時十九分で帰途に就き、三時帰宅。

三月十九日 木曜 曇 暖

九時十一分猴硐へ行って、八つ切一枚写生。十二時武丹坑へ行って、五時半帰宅。

三月二十日 金曜 雨 暖

朝、菊秀卒業する故式に出席。十時四十五分で出北。

金を貰ってから、丸山晩霞の個展準備の手伝をなす。九時帰宅。

三月二十一日 土曜 雨 暖

十一時十五分で武丹坑へ支払に行って、三時帰宅。油絵の六号に一寸補筆し、八号を描き始めた。唐宋元明名画大観買入。晩、信用組合の招待に預って出席した。

三月二十二日 日曜 晴 暖

七時五分で叭噠港へ行って、十一時出北。二九年社展及独立展を見てから、楊君を訪問して赤島社展の打合をしてから、丸山晩霞の展覧会を見てから、藍君を訪問。晩、西川氏を訪問、十時帰宅。

三月二十三日 月曜 晴 暖

九時十一分で猴硐へ行って、四つ切一枚スケッチして、十二時で武丹坑へ行って、二時又猴硐へ来て、四つ切一枚写生して、五時半帰宅。

三月二十四日 火曜 晴 暖

九時過、石川先生写生に来宅、十二時帰北せらる。午

后、四つ切一枚写生した。

三月二十五日 水曜 晴 暖

六時五十八分で武丹坑へ行って、石底二坑ノ結算をやった。一時五十分で帰基。夕方、四つ切半成を仕上げた。

三月二十六日 木曜 曇 寒

午前、四つ切一枚写生。午后十二時二十五分、叭塘港へ行って、夕方出北。野田及西川を訪問して、八時帰宅。

三月二十七日 金曜 曇 寒

午前は菊秀を女学校入学受験に連れて行った。午后、丸山晚霞氏を見送に行った。

三月二十八日 土曜 雨 寒

六時五十八分で石底二坑へ行って、五時半帰宅。

三月二十九日 日曜 雨 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

三月三十日 月曜 曇 暖

朝、高火炉等來訪。十二時二十五分で叭塘港へ行って、三時の列車で出北。陳植棋を見舞ひ、石川先生を訪問、赤島社出品画を選んで貰った。晩、藍君の家に集って、赤島社展の会議をやった。十時帰宅。

三月三十一日 火曜 曇 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。許国珠を武丹坑へ転勤する事に決定、言渡した。

4月

四月一日 水曜 曇 寒

十二時二十五分で出北しやうとしたら、日本水彩画会々員八木氏來訪、岸田氏と公館へ連れて行って水彩画を見せた。

四月二日 木曜 雨 寒

八時六分で出北、旧庁舎で赤島社展覧会を開く故、出品画を持って行った。午后四時、記者連を招待して茶話会を開いた。十時帰宅。

四月三日 金曜 雨 暖

九時十一分で猴硐へ行って、塚崎に第一分坑及第二分坑の境界仲裁を頼んだ。十二時で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

四月四日 土曜 晴 暖

午前、清蓮を幼稚園に、菊秀を高女に入学させた。十二時二十五分で叭哩港へ行って、三時に出北、会場へ行く。晩、明治製菓茶店で石川師、塩月氏を招待して、十時帰宅。

四月五日 日曜 晴 暖

七時五分で、礼興と出北、亡母の墓参をした。十一時、会場へ出た。晩、会場を片付、十時帰宅。

四月六日 月曜 雨

八時六分で出北、後宮から金を受取って、二時帰宅。

四月七日 火曜 雨

九時十一分で猴硐へ行ってから、武丹坑へ支払に行った。五時半帰宅。

四月八日 水曜 晴

紺家の事件で証人脇屋敷を連れて、八時六分で出北、五時帰宅。

四月九日 木曜 晴 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、八時過帰宅。武丹坑媽祖祭で宴会を開いた。

四月十日 金曜 晴 暖

四叔と共に亡父の墓参をした後、草濫へ行って祖先の

墓掃除をやり、午後二時十分で出北、七時半帰宅。

四月十一日 土曜 曇

八時六分で叭噠港へ行って、十二時出北。池田氏を見舞。陳植棋君を見舞に行ったら、退院後でした。看護婦から重くなった事を聞いて、心配でならない。藍君にこの事を知らせた。

四月十二日 日曜 雨

六時五十八分で武丹坑へ行って、十一時四十分で南港へ行って、陳植棋君を見舞ましたが、全く危篤に陥って誠に氣の毒でした。親友の来たるを聞きて、むりに目を開けて見てくれて感謝の意を表せられたやうである。

四月十三日 月曜 雨

昨夏の傷害事件起訴猶予となり、請書を出した。九時二十七分で南港へ行った。陳植棋君十一時十五分、遂に黄泉の客となる。悲しきかな。十二時五十分で出北、三新聞に知らせ、電話電報で友人に知らせた。

四月十四日 火曜 雨

七時六分で叭噠港へ行って、十時十八分で南港へ行って、故陳君を吊った。郭柏川、楊佐三郎、後藤夫妻も集った。十一時五十九分で共に出北、追悼会々場を打合せて決定した。七時半帰宅。

四月十五日 水曜 雨

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。夕立甚だ大なり。

四月十六日 木曜 雨

六時五十八分で青桐坑へ支払に行って、三時帰宅。

四月十七日 金曜 雨

七時六分で叭噠港へ行って、十時十八分南港へ行って、故陳君家へ行って追悼会を行ふ打合をした。一時四十一分で出北、石川先生に吊詞を頼み、南京游君に歐文電報を頼んだ。追悼会案内状を出した。七時半帰宅。

\* 編按：本日內容曾誤寫於五月十七日，其後刪除並謄寫於四月十七日。

四月十八日 土曜 隅

朝故陳君を吊ふ吊詞を精書した。十一時十五分、□弘英を武丹坑へ連れて行った。五時半帰宅。游君に打電した。

\* 編按：本日内容曾誤寫於五月十八日，其後刪除並謄寫於四月十八日。

四月十九日 日曜 雨 寒

七時五分で出北、新起町西本願寺で故陳植棋君の追悼会を催した。午前〔后〕一時、南港の宅で汐止街有志主催の追悼会に参加した。

四月二十日 月曜 曇 暖

八時六分で出北、後宮から金を貰って、二時帰宅。

四月二十一日 火曜 晴 暖

六時五十八分で武丹坑へ支払に行って、十二時四十分帰宅。午前〔后〕二時三十八分出北。四時、東門曹洞宗別院で故黃土水君の追悼会があるので出席。七時半帰宅。

四月二十二日 水曜 曇 寒

七時三分で叭噠港へ行って、十時出北。一時南港へ行

って、四時帰宅。晩、大正軒で李建興から千參百八円七拾五分貰った。会するもの、太田、野田、西村、李建興、李四川、劉尚、外一人でした。

\* 編按：四月二十三至二十五，無内容記述。

四月二十六日 日曜 晴 暖

七時六分で叭噠港へ行って、十時十八分で南港へ行って、植棋君葬式準備の手伝をした。

四月二十七日 月曜 晴 暖

五時二十五分一番列車で南港へ行って、故陳植棋氏の葬式に列し、午后三時出北。台日社へ材料を供給し、後藤氏を訪問。

四月二十八日 火曜 晴 暖

十一時十五分で王を武丹坑へ連れて見習させた。六時半帰宅。

四月二十九日 水曜 晴 暖

七時三分で叭噠港へ行って、王及高に見学させた。一

時過出北、藍君を訪問して、七時半帰宅。四時頃、後藤氏と石川先生を訪問。

四月三十日 木曜 晴 暖

十二時二十五分で北港口へ行って、請負の引継をやって、八時前帰宅。

## 5 月

---

五月一日 金曜 雨 寒

七時三分で北港口へ行って、水選を特に監督した。六時帰宅。池田氏の妻、黃添全を連れて來訪。

五月二日 土曜 雨 寒

六時五十八分で青桐坑へ支払に行って、二時半に武丹坑へ廻って、五時半帰宅。

五月三日 日曜 雨 暖

六時二十分で北港口へ行って、水選設備を改造した。五時半で出北、脇坂様を訪問して、八時半帰宅。

五月四日 月曜 半晴雨 暖

六時二十分で北港口へ行って、水選設備を改造して試験して見た。六時帰宅。

五月五日 火曜 晴 暖

六時二十分で北港口へ行って、十時十八分で出北。森氏の妻急死したので、悔に行った。夕方、藍君を訪問。

晩、西川氏を訪問し、九時帰宅。

五月六日 水曜

午前公館へ金借りに出た。午后一時出北、森夫人の葬式に参列して、八時五十分帰宅。

五月七日 木曜 曇 暖

六時五十八分で武丹坑へ支払に行って、十二時二十五分で北港口へ廻って、六時半帰宅。

五月八日 金曜 曇 暖

六時二十分で北港口へ行って、午后叭噠港へ廻ってから、三時出北。六時半帰宅。

五月九日 土曜 曇 暖

六時五十八分で武丹坑へ行って、十二時北港口へ廻って、水選設備を監督した。三時半出北、秦金石の南画展を見て、紙本一枚買った。黃土水の遺作展を見、山羊一点を予約した。六時半帰宅。

五月十日 日曜 晴 暖

朝六時出発、鱗魚坑へ故顔正喜夫人の葬式参列した。午后一時半帰宅。二時で北港口へ行って水選設備を半分仕上げて、明日作業出来る様にして、七時帰宅。

五月十一日 月曜 晴 暖

十二時頃脇坂氏来宅、一時六分で共に北港口へ行って水選設備を見た。六時半帰宅。

五月十二日 火曜 曇 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。

五月十三日 水曜 曇 暖

午前六時二十分で叭噠港、北港口へ行って、三時半で出北。本社へ土地問題を提出した。石田倭吉店へペルボイ\*保温済を注文した。七時半帰宅。

\*編按：亦可能爲ベルボイ

五月十四日 木曜 晴 暖

十時頃、楊佐三郎君來訪。十一時十五分で武丹坑へ行く。駅助役、三井店員、警官を招待したので、八時に帰宅。

五月十五日 金曜 雨 暖

十一時十五分で武丹坑へ行って、五時半帰宅。夕立甚だ大なり。

五月十六日 土曜 雨 暖

六時五十八分で菁桐坑へ支払に行って、三時帰宅。

\* 編按：

五月十七日，原內容刪除並謄寫於四月十七日。

五月十八日，原內容刪除並謄寫於四月十八日。

五月十九日至二十二日，無內容記述。

五月二十三日 土曜 晴

六時二十分で北港【口】へ行って、五時帰宅。

五月二十四日 日曜 晴 暖

六時二十分で叭哩港及北港口へ行って、十時十八分で南港へ行って、故植棋君の法事に参拝した。四時半出北、石川先生を訪問、遺作展及台水展開会期日を打合せた。

五月二十五日 月曜 曇 夕立

六時五十分で武丹坑へ行って、十二時四十五分で北港口へ行って、五時帰宅。北港口排水坑甌瓦積着手。

\* 編按：五月二十五日之後，皆無內容記述。

倪蔣懷日記 1938 年

發行人 | 館長駱麗真

日文釋讀、校對 | 鈴木惠可、徐聖凱、莊慈、廖春鈴

執行編輯 | 莊慈

美術設計 | 胡若涵

數位出版日期 | 中華民國 114 年 12 月

發行所 | 臺北市立美術館

104227 臺北市中山區中山北路三段 181 號

電話 | (02) 2595-7656

版權所有 | 臺北市立美術館

文字版權所有 | 釋讀者

\* 為尊重智慧財產權，參考使用需標示「釋讀者姓名」

# 年三十和昭

日 創

記 用

## 編輯凡例

- 一、日記原文無標點，為便於讀者理解特加標點符號。
- 二、文中日文漢字統一使用「日本新字體漢字」。
- 三、為求版面統一，文中內容皆不換行。
- 四、原文標記刪除的部分（作者因書寫有誤而刪除者），一律刪除。
- 五、文中「四つ切」、「八つ切」之「つ」，因平假名與片假名之大小字「つ」、「っ」、「ツ」、「ッ」皆有出現，為方便讀者閱讀，統一使用平假名大字「つ」。
- 六、文中如有漏字，以【 】補之。
- 七、文中如有無法辨識的字，以□標示。
- 八、文中如有錯字，更正於後之〔 〕內。
- 九、1938 年日記因作者未逐日書寫，故本書僅收錄具書寫內容之日期。

1月

一月一日 土曜 晴

七時起床、九時基隆神社参拝後、年始廻礼。十一時公会堂での名刺交換会に出席。0 時三十分瑞芳行廻礼、三時武丹坑行廻礼、六時半帰宅。

一月二日 日曜 曇

午前中色紙五枚、午后二枚描いた。三時頃、菊秀夫婦連で帰来、夕食後帰北。

一月三日 月曜 雨

一時で瑞芳分坑行。晩、大藪様に招待された。

一月四日 火曜 雨

午后一時で瑞芳坑行、五時帰宅。晩、世界館の映画を久振に見た。

一月五日 水曜 曇

十二時半で瑞芳坑行、六時帰宅。（六日と入違）

\* 編按：作者標註記述內容應屬 1 月 6 日。

一月六日 木曜 曇

九時四十五分で出北、友林冬桂を訪問。二十余年振で会って親しみが一しほ深かった。エルテルで共に中食後、共に藍君を訪問、三時江山樓で藝妓をモデルにして写生した。八時五分で帰宅。（五日と入れ違）

\* 編按：作者標註記述內容應屬 1 月 5 日。

一月七日 金曜 雨

朝風邪で気持悪かった。請負賃を貰って、午后瑞芳坑行、六時帰宅。

一月八日 土曜 雨

十時で瑞芳坑行、六時半帰宅。

一月九日 日曜 雨

午后二時頃友林冬桂及其娘を連れて來訪。所蔵の画を見せて、夜九時帰北。旧友に会った喜びと其娘の画家志願の喜びが二重になって愉快な半日を過した。

一月十日 月曜 曇

侯塹を歯医者に、侯文を久保に連れて行った。十二時半で瑞芳坑へ支払に行った。

發信 | 大田 大平 安田 帝国生命へ

一月十一日 火曜 晴

午前、侯塗を歯医者に連れて行った。午后、頭痛したので休んだ。

發信 | 鮫島台器

高橋恂

石川先生

一月十二日 水曜 雨

九時瑞芳坑行、十一時半で帰基。本社へ油炭層の見本炭提出。午后二時出北、林冬桂氏を訪問、娘のデッサン等を批評、午后九時帰宅。

一月十三日 木曜 雨

十時瑞芳坑行、六時半帰宅。

一月十四日 金曜 曇

市役所へ国語家庭認定申請書を取りに行った。午后一時瑞芳坑行、六時半帰宅。十二年下期の鉱業明細表を作製した。

一月十五日 土曜 曇

午前、本社へ請負賃貰ひに行った。午后瑞芳坑行、六時半帰宅。晚九時、藍君久振で來訪、十二時迄語り合ってから休んだ。

一月十六日 日曜 晴

九時四十五分、藍君を見送ってから、十時で瑞芳坑行、六時半帰宅。

一月十七日 月曜 晴

九時半で瑞芳坑行、十二時四十四分で武丹坑行、六時帰宅。

一月十八日 火曜 晴

十時で瑞芳坑行、五時帰宅。

發信 | 野田明

一月十九日 水曜 晴

九時瑞芳坑行、十二時半帰宅。二時で出北、エルテルにて女給をモデルに二枚スケッチした。九時帰宅。

一月二十日 木曜 晴

八時三十八分で武丹坑行、油炭調査及無煙炭斜坑探掘測量の立会をした。六時帰宅。

一月二十一日 金曜 雨

十時瑞芳坑行、十二時四十四分で武丹坑行。養女を貰ふべく、劉氏琴を見て來た。

一月二十二日 土曜 雨

午前、請負賃を貰ひに出社。十二時半で瑞芳坑行、六時半帰宅。

一月二十三日 日曜 雨

九時双葉小学校へ学芸会を見に行った。午后二時范宝勲氏母堂の葬式に出た。晚、国語家庭調査員来宅。

一月二十四日 月曜 晴

十時瑞芳坑行、六時帰宅。

一月二十五日 火曜 晴

九時半瑞芳坑へ支払に行って、二時帰基。基隆社で旧

正月休業せざる事及献金の相談会があった。

一月二十六日 水曜 雨

十時瑞芳坑行、六時半帰宅。

一月二十七日 木曜 曇

九時四十五分で出北、海軍武官室へ海軍への献金百円、坑夫一同の分参拾円を払って行った。午后、林冬桂君を訪問、其の二女麗村を連れて附近を二点（四つ切）写生した。久振で風景を描いたのですが、面白く行った。晚、蔭鼎君を訪ね、竹籜を切られる件につき善後策を講じた。十時帰宅。

一月二十八日 金曜 曇

十二時瑞芳坑行、六時半帰宅。千代田生命に保険式仔円申込、身体検査に晚受けて、保険料を払った。女中として陳氏腰を雇入れた。をなしく \* 真面目で礼儀であった。よかった。

\* 編按：をなしく可能爲「おなじく」或「おとなしく」的誤寫。。

一月二十九日 土曜 晴

午前本社へ金貰ひに出た。武丹坑無煙坑内斜坑の状況

報告。午後一時瑞芳坑行、六時帰宅。

一月三十日 日曜 曇

八時半瑞芳坑行、間取りに入坑。四時半で帰宅。

一月三十一日 月曜 曇

朝から武丹坑から楊等来宅。午後、本社へ出た。

2 月

---

二月一日 火曜 雨

九時四十五分で出北、林冬桂君の娘を連れて、附近で二枚写生した。竹籜を主として描いた。林君の長女婚約、晚藍君等と招待された。

二月二日 水曜 雨

午前瑞芳坑行、午後本社行。宮崎次長から無煙坑斜坑計画を命ぜられた。

二月三日 木曜 晴

十時八分で双溪行、公学校で武丹坑の戦死者浅川支那夫氏の庄葬に出席。三時瑞芳坑へ寄って、六時帰宅。

二月五日 土曜 雨

午後一時で瑞芳坑行、採炭請負の見積書を瀧口主任に出す。

二月六日 日曜 曇

八時半で瑞芳坑行、十一時帰基。午後二時双葉小学校

講堂で戦死者の市葬に参拝。三時十五分のバスで出北、許丙氏母堂の葬式に出た。藍君を訪問、九時帰宅。菊秀及徳富来宅、駅で出会ふ。ワットマン紙輸入禁止に付、東洋美術社にある十一枚全部を買占めた。

二月七日 月曜 雨  
八時半で武丹坑行、鉱務課属の鉱産税調査の立会を行った。三時瑞芳坑行、六時半帰宅。

二月八日 火曜 雨  
午前、本社へ油炭見本を持って行って見せて試験して見た。請負賃を受けた。午后一時瑞芳坑行。

二月九日 水曜 雨  
八時半武丹坑、鉱務課属生産費調査の立会をした。六時帰宅。晩、□□警官の送迎会に出た。林冬桂氏來訪、直に帰北。

二月十日 木曜  
九時半瑞芳坑へ支払に行った。彩美堂へ椽注文。大阪田中貿易部へ絵具注文。洪瑞麟へ金三十円送金。美術、アトリエへ誌代一ヶ年分、半年分送った。

發信 | 石川先生 大阪絵具展  
受信 | 彩美堂

二月十一日 金曜 雨  
九時半で瑞芳坑行。十一時から役場で街昇格の祝賀会があるので出席した。

二月十三日 日曜 晴  
九時四十五分で出北、全国書画展を見に行つたが、気分が悪かったので早く去つた。午后二時前林冬桂君を訪問、娘の写生を指導した。天候急変したので早く去つて買物をして七時帰宅。

二月十四日 月曜 曇  
午前本社へ出頭。十時瑞芳坑行、三時武丹坑行、六時帰宅。張萬傳氏晚來訪、紹介を頼まれた。  
受信 | 石川先生

二月十五日 火曜 曇  
本社へ出頭、勘定。書画会員数名晚來訪、例会開催の件打合せた。

二月十六日 水曜 晴 夕立

九時瑞芳坑行、六時帰宅。

受信 | 石川先生

亀井和

二月十七日 木曜 曇

午前大藪来宅、分坑請負の件打合せた。午后瑞芳坑行、三時張萬傳君と庄役場へ行き、張君の芸術を紹介した。

發信 | 蕭天旺

二月十八日 金曜 曇

九時四十五分で出北、商工銀行へ書換を行った。四月十日期日、三四〇〇及一二、八〇〇。森末太郎再来台に付訪問、歓迎の意味で中食を共にし、熱河省等のみやげ話を聞いた。玉美を尋ねて來た。三時から林麗村を連れて円山附近を二点写生してから、藍君を訪問した。ワットマン紙二十枚買って、十時帰宅。

二月十九日 土曜 雨

十二時半で瑞芳坑行、四時半帰基。

受信 | 洪瑞麟

二月二十日 日曜 雨

風邪で頭痛甚しいので、山へ行かず静養した。

發信 | 文房堂 服部時計店 航空便

受信 | 蕭天旺

二月二十一日 月曜 曇

十時で瑞芳坑行、六時半帰宅。

二月二十二日 火曜 晴

八時で瑞芳坑行、十一時帰基。本社へ金貰ひに行つた。午后一時二十分出北。好天氣竹藪の色調特に美しく、藍君と宮前町附近で写生。ワットマン紙二十枚又買って、十時帰宅。

二月二十三日 水曜 晴 \*

\* 編按：本日僅記述天氣「晴」一字。

二月二十四日 木曜 晴

八時半で瑞芳坑行、十二時四十五分で武丹坑行。堤氏と無煙坑へ行き、在炭を調べて六時帰宅。石川先生大作來着。

二月二十五日 金曜 晴

朝本社へ出頭、十時で瑞芳坑行、請負賃見積書作成を命ぜられた。不在中に頬石傳来宅。

二月二十六日 土曜 晴

八時半で瑞芳坑行、二時半帰宅。工賃支払をなす。

發信 | 石川先生

受信 | 藍蔭鼎

二月二十七日 日曜 晴

九時瑞芳坑行、五時半帰宅。晚九時洪瑞麟來訪、ルオ一画集を贈られた。

發信 | 文房堂へ航空便で紙注文

二月二十八日 月曜 晴

午前中本社出頭、請負賃を受けた。午后瑞芳坑行、跡間取り。

3月

三月一日 火曜 晴

八時半で武丹坑行、十二時半で瑞芳坑行。請負見積書を主任に提出した。

三月二日 水曜 晴

十時十五分の局営バスで中学校行、侯太の卒業式に参列、昼食の招待を受けて、一時十五分で松山行。徐春卿の娘の遭難を弔問した。三時出北、藍君を訪問したが留守、エルテルで楊君、李梅樹君に出会い、東京よりモデル招来の件を打合せた。

三月三日 木曜 晴

九時瑞芳坑行、十二時半帰宅。午后二時より所得税調査官来宅、調査された。玉美十時頃女子分娩した通知来た。桃の節句に生れたので、桃子と命名した。

三月四日 金曜 晴

頭痛したので壳薬を飲んだが、よくならないので、漢法〔方〕薬を飲んだ。

三月五日 土曜 晴

頭痛癒らないので、久保医師の来訪を乞て、服薬した。

三月六日 日曜 晴

頭痛未だ癒らないので、山へ行かずに家で静養した。

三月七日 月曜 雨

午前本社へ出て、請負賃を貰った。午后瑞芳坑行、五時半帰宅。積込賃負担させられた。

三月八日 火曜 雨

午前本社へ無煙炭斜坑計画の打合を行った。十二時半で瑞芳坑行、三時半分室に行きて顔倉〔滄〕波の件を頼んだ。

三月九日 水曜 雨

午前本社へ出づ、無煙斜坑計画打合。一時で瑞芳坑行、二百五十馬力試運転、六時帰宅。晚、空襲警報。石川先生より来信。

發信 | 草土会 大阪田中貿易部

受信 | 石川先生 文房堂

三月十日 木曜 雨

十時半瑞芳坑へ支払に行って、六時帰宅。

三月十一日 金曜 雨

八時半で武丹坑行、派出所落成式に出席。十二時半で瑞芳坑行、六時半帰宅。

三月十二日 土曜 雨

午前本社へ出頭、斜坑計画書を出して進行工程を打合せた。晚、池部技士を訪問、武丹坑問題等を打合せた。

三月十三日 日曜 雨

無煙坑斜坑見積書を提出した。十二時半で瑞芳坑行、本卸の断層を見た。六時帰宅。基隆座の映画を見るべく出掛けたが、満員で帰った。

三月十四日 月曜 雨

十一時で瑞芳坑行、粉炭選炭をよくすべき事を命ぜられた。五時半帰宅。侯文、芳子感冒。久保医師の診察を受けた。路面改良負担金申告書提出。

三月十五日 火曜 雨

八時四十分で出北、静修女学校の卒業式に参列。中食後、玉美の出産を祝に行った。藍君を訪問して、七時半帰宅。

三月十六日 水曜 曇

十時双葉小学校へ卒業式に参列。清蓮の卒業を見た。侯太、高校受験の為め出北。午後二時瑞芳坑行、六時帰宅。

三月十七日 木曜 曇

朝より出北、侯太の高校受験を見て來た。六時帰宅。

三月十八日 金曜 雨

九時半で瑞芳坑行、三時武丹坑行。摯友結婚披露宴に招待され、九時帰基。午前一時半迄二次会、三次会をやった。午後一時より妻成人総動員に出た。

三月十九日 土曜 雨

九時本社へ出頭、無煙斜坑着手の打合をなす。十時瑞芳坑行、三時半帰基。

三月二十日 日曜 曇

九時四十分で出北、ムーブ展を見て來た。十時帰宅。藍君、洪君外ムーブ団員に会った。  
受信 | 蕭天旺

三月二十一日 月曜 晴

八時半で瑞芳坑行、一時半帰宅。侯太受験の為め上京、五時半の大和丸で出帆。家内及弟妹一同見送りに波止場へ行った。

三月二十二日 火曜 晴

芳子を連れて久保医師の診察を受けた。本社から請負賃を貰ひ、午後一時瑞芳坑行。

三月二十三日 水曜 雨

八時清蓮を連れて、基隆高女の入学受験を行った。午後一時半で瑞芳坑行、六時帰宅。七時から高砂樓で林耀西君の入賞祝賀宴会があるので出席した。

三月二十四日 木曜 雨

午前清蓮の受験を見に女学校へ行った。

三月二十五日 金曜 雨

九時半で瑞芳坑へ支払に行って、四時半帰宅。

三月二十六日 土曜 雨

芳子熱が高いので久保医師の来診を乞ひたる後、十一時入院せり。清蓮、基隆高女の入学試験に合格。菊秀、台北より帰来。感冒の上腹痛を起したので服薬した。

三月二十七日 日曜 雨

下痢をしたので山へ行かず病院で看病しつゝ静養した。

三月二十八日 月曜 雨

服薬して静養した。

三月二十九日 火曜 晴

十二時十分で武丹坑行、三時で瑞芳坑へ廻って、六時帰宅。

三月三十日 水曜 晴

十時で瑞芳坑行、六時帰宅。芳子退院。

三月三十一日 木曜 晴

下痢をしたので山へ行かず家で服薬して静養した。夕刊を見れば物品税が高くかかるので、腕時計及帽子を買ひに出た。

4月

四月一日 金曜 晴

九時で瑞芳坑行、跡間取。六時半帰宅。

發信 | 帝国生命

四月二日 土曜

發信 | 帝国、安田、大同、三井、明治生命へ航港便

四月六日 水曜 晴

野田明氏に飛行便に犀角粉及肺炎の特效薬を送った。

四月七日 木曜 晴

芳子の看病で山へ行かなかった。午后、本社へ請負賃  
貰ひに出た。

四月八日 金曜 晴

八時で瑞芳坑行、十二時帰宅。十二時十分で出北、洪  
瑞麟君及藍君を訪問して、九時帰宅。

四月九日 土曜 晴

十時で瑞芳坑行、三時帰宅。六時半双葉小学校で大内  
先生の送別会があるので出席した。四叔一行四人来宅。  
受信 | 藍蔭鼎

四月十日 日曜 雨

大日本高等予備校（大森区雪ヶ谷町五一）  
東京振替七三四三四 電話荏原 四三六九

四月十二日 火曜 晴

芳子下熱したので愁眉を開いた。本社へ武丹坑斜坑の  
打合に出た。十時瑞芳坑行、午后五時半帰宅。

四月十三日 水曜 晴

八時瑞芳坑行。昼前に主任に見積書を提出。午后一時  
より信用組合階上に基隆郡防諜聯盟結成式に出席、四  
時閉式。五時帰宅。

四月十四日 木曜 曇

十時瑞芳坑行、午后主任に見積書を提出。晚、役場で  
の小野塚氏の送別会に出た。三井生命へ借用証を航空  
便で出した。芳子機嫌がよいので起したら又発熱し

た。

發信 | 三井生命

四月十五日 金曜 晴

十時、古川技師帰国に付見送りに出た。十二時十分出北、夕方藍君を訪問、八時帰宅。玉美、菊秀連れ立って帰来。侯太、四中補習科（城北高等補習学校）二千人の中から四百人合格の中に入つて合格した快報來た。

四月十六日 土曜 晴

十一時半瑞芳坑行、午后跡間取に入坑。林德富来宅。

四月十七日 日曜 晴

藍君上京、見送りにて出品画を頼んだ。二時瑞芳坑行、六時半帰宅。

四月二十二日 金曜 曇

午后二時高千穂丸に乗船、内地に赴いた。林德富、蘭英等見送ってくれた。夜、芳子三十九度半迄発熱。三時頃、侯文裏の□□より落ちて数ヶ所の擦過傷を負うた。

四月二十三日 土曜

昨夜寝冷したので頭痛を催した。

四月二十四日 日曜 晴

午後一時門司入港、下関に上陸し遊覧バスにのりて長門乃木神社迄遊んで來た。車中バスガールの説明の美文的絵画的に感激した。暑いのに驚き台灣と変らず内地へ行った感しなかった。

四月二十五日 月曜 晴

十時過神戸入港、近藤先生の未亡人迎に来てくれて懐しかった。午后美術館の関西美術展を見て、小品（中の島公園、嵐山の花）二点買った。八時頃、芳子発熱、侯文受傷の飛行便に接し心配した。

四月二十六日 火曜 晴

八時より奥様同行、宝塚へ行って少女歌劇を見た。夜八時半の夜行で大阪を去り東京に向った。

四月二十七日 水曜 晴

七時半東京駅着。侯太、蔭鼎及宿の番頭迎に出てくれた。十時より春陽会観覧、午后日本水彩画展観覧、晚

翠松園で石川恩師、真野、省月、山中等に支那料理を招待された。十時山中様に案内されて中西利雄氏を訪問、アトリエを見た。

#### 四月二十八日 木曜 曇

午前モデルを雇うて裸体一点写生した。午后、侯太の下宿を見に行ってから、石川恩師を訪問。次に井本所長を訪問、祝賀品を進呈。滋彦君を訪ね、猪狩閣下を訪問したが不在。ホテルに帰り後、閣下来訪を受けた。

#### 四月二十九日 金曜 晴

午前モデルを一点かいた。十一時美術館へ行く。正午翠松園で恩師石川、田中両先生を招待した。晩、銀座へ買物に出た。

#### 四月三十日 土曜

午前モデルを写生。午后美術館へ行く。晩、張秋海来訪、三人にて銀座へ行き第三明朗で遊び、始〔初〕めて冷ビールの美味を味ふた。

## 5月

---

#### 五月一日 日曜

朝から松坂屋へ買物に出た。疲労甚しく、中食前に帰宿。午后静養した。夕方又美術館へ出かけた。晩、侯太の先輩呉物典を新宿で招待した。

#### 五月二日 月曜

朝又松坂屋へ行って買物をした。午后又美術館へ行った。夕方、石川恩師来宿、晚餐を共にして記念写真を撮った。八時半宿を出て東京駅に赴いた。山中氏、侯太、旅館の主人、番頭、女中の見送を受けて、十時発の夜行で帰途についた。

#### 五月三日 火曜 曇

十時過大和丸に乗船、正午過神戸港を出帆した。

#### 五月四日 水曜 曇

霧の為め門司入港後れた。十時二十分下関で上陸して、十一時十五分門司に帰って、十一時半乗船、十二時門司出帆した。

五月五日 木曜

船中で女の客をモデルにして描きかけたが、逃げられたので完成しなかった。夕方、船の甲板で鉛筆スケッチをした。

五月六日 金曜

午后四時半入港、五時上陸、無事帰宅したのは五時半。

五月七日 土曜

九時半瑞芳坑行、主任等挨拶廻を行った。午后本社へ出て挨拶した。

發信 | 張秋海、真野、侯太、鮫島

五月八日 日曜

諸先生へ礼状を書き、烏龍茶を贈った。

發信 | 石川先生、山中、榎本先生、篠崎、中西

五月九日 月曜 晴

午前九時瑞芳坑行、十一時帰基。宮崎鉱務主任へ帰來の挨拶をした。晩、主任を訪問、友人の画六幅預けて貰った。

五月十日 火曜 曇

本社へ請負賃ひに行った。井本所長帰来に付出迎に出た。河野俊雄氏に久振に会ひ、自由亭で中食の御馳走を招待された。

五月十一日 水曜 晴

十時で瑞芳坑へ支払に行った。二時主任を訪問、分坑請負賃協定の件を頼む。村上氏晩来訪、画一幅預けて貰った。

五月十二日 木曜 晴

八時で瑞芳坑行、十一時四十四分で武丹坑行、午后六時帰宅。

發信 | 侯太へ肉脯及茶を送る

五月十三日 金曜 晴

十時瑞芳坑行。午后一時瑞芳一坑行、分坑五月一日以後の請負単価協定をした。三・五〇と決定したので安神〔心〕した。晩、基隆座へ行って活動を見た。

五月十四日 土曜 晴

九時瑞芳坑行、五時帰宅。

五月十五日 日曜 晴

八時で出北、玉美の家へ行った。牧星在宅、将来の希望等をきいた。十一時頃去って中食後、張萬傳君を訪問、作品を見せて貰った。林冬桂君を訪問したが不在、三時頃藍君を訪問、八時帰宅。

五月十六日 月曜 晴

午前本社へ金貰ひに出た。午后0時半、瑞芳坑行、跡間取った。午后六時半帰宅。

五月十七日 火曜 晴

八時で瑞芳金山行、七番坑の金鉱を願ったが甲鉛でだめだった。十一時半瑞芳坑へ廻って、六時帰宅。

五月十八日 水曜 晴

八時三十八分で武丹坑行、斜坑の方向をきめて貰った。三時瑞芳坑へ寄って六時半帰宅。洪一枝来宅。九時から尾家新一君の出征見送りに出た。石川先生と藍君三人の記念写真到着。

受信 | 石川先生、榎本先生、侯太

五月十九日 木曜 雨

午后0時半で瑞芳坑行、七時帰宅。晩、顏登燦来宅、調査所の件打合せた。

五月二十日 金曜 雨

午前本社へ出た。午后0時半で瑞芳坑行、六時帰宅。八時から徐州陥落祝賀の提灯行列に出た。

受信 | 近藤省吾

五月二十二日 日曜 曇

九時四十五分で出北、張萬傳君と陳徳旺君を訪問、作品を見た。気持のよい色彩観、技法の進歩したのを見て感心した。ルノアール画集を借りて帰った。陳英声君を訪問したが留守、藍蔭鼎君を訪問したが亦留守。溪洲の野外カフェへ行って楊佐三郎君に会ひ、春陽会出品作の批評を聞かせた。九時帰宅。

五月二十三日 月曜 雨

午前本社へ請負貸受取に出たが、整理出来ないので明日に延ばされた。午后一時で瑞芳坑行、六時半帰宅。

五月二十四日 火曜 雨

午前本社へ金受取に出た。十一時十三分で武丹坑行、三時過瑞芳坑へ廻った。晚七時過、瑞芳一坑俱楽部で書記の送別会に出て、九時半帰宅。

五月二十五日 水曜 曇

九時半で瑞芳坑へ支払に行って二時帰宅。三時五分で出北、博物館での戦争画展覧会を見た。八時帰宅。

受信 | 真野、篠崎、門口きよ子

五月二十六日 木曜 晴

午后一時で瑞芳坑行、六時帰宅。

受信 | 真野

五月二十七日 金曜 晴

一時で瑞芳坑行、六時帰宅。午前中手紙を書いて出した。

發信 | 石川、榎本、藤井、きよ子

彩美堂

蕭天旺

五月二十八日 土曜 晴

水彩画会で買った画到着した。

五月二十九日 日曜 晴

七時半瑞芳坑行、十二時帰宅。午后一時五分で出北、藍君を訪問後、英声君を訪問。三人で蓬萊閣で晚餐の招待を受けた。十一時帰宅。

五月三十日 月曜 晴

朝七時半で瑞芳坑行、十一時帰宅。一時女学校へ行き、清蓮の英語授業を参觀し、主任から注意をきいた。二時半、顔窗吟の帰来を出迎に行った。

五月三十一日 火曜 晴

午前本社へ金受取を行った。十一時半で瑞芳坑行、跡間取をして、六時半帰宅。

6月

六月一日 水曜 晴

疲労して頭も重かったので山へ行かず家で静養した。

發信 | 石川先生、太田義男

受信 | 等々力巳吉

六月二日 木曜 晴

午前静養した。午后本社ヘレール借用願及変圧器買入願を出した。家の前でボートレースがあって賑かだった。

六月三日 金曜 晴

八時で瑞芳坑行、四時半帰宅。晩、基隆神社へ参拝した。篠崎様から写真到来。

受信 | 篠崎

六月四日 土曜 晴

七時半で瑞芳坑行。午后一時半、井本所長、顏欽賢重役、宮崎次長来山。六時帰宅。

六月五日 日曜 晴

八時で瑞芳坑行、六時帰宅。近藤様から贈品到着した。税務課へ猴硐廃業の旨再び知らせた。

六月六日 月曜 晴

九時四十五分で出北、海軍武官室へ恤兵献金百円献納した。全室から記念のバッヂ八ヶ及献金美談集八冊貰った。李梅樹君に久振で会ひ中食を共にした。午后、林冬桂君を訪問後、林德富を訪ねた。七時半帰宅。国民工業学院へ本を注文した。

發信 | 近藤、篠崎

受信 | 侯太 呂接旺

六月七日 火曜 晴

七時半で瑞芳坑行、十一時帰基。本社へ請負貨を貰ひに行く。午后軽鉄会社へ行く。父の忌日、四叔来宅、七時過帰北。登燦来宅。

六月八日 水曜 晴

七時半で瑞芳坑行、十一時半帰基。本社ヘレールの件交渉に行く。午后家で休んだ。

受信 | 石川、野田、瑞麟

六月九日 木曜 晴

寝冷したので頭痛甚しく、山へ行かず家で静養した。午后四時、張新財、洪天水につれられて来宅。炭礦借区の件打合せて貳百円内貸した。呂接旺来宅、金鉱の件頼まれた。晚、陳文遠君久振來訪、一時間語り合ってから帰られた。

發信 | 侯太

野田明

六月十日 金曜 晴

九時半で瑞芳坑へ支払に行って、三時帰宅。石川先生及真野様へ潤筆料送金した。

六月十一日 土曜 晴 タニス

市役所兵事係へ恤兵献金百円献金した。十一時で出北、洪瑞麟を訪ねたが留守で失望した。仕方なしに第一劇場へ映画見に行って、七時半帰宅。

六月十二日 日曜 晴

七時半で瑞芳坑行、十二時帰宅。

六月十三日 月曜 晴

午后一時瑞芳坑行、六時半帰宅。石川先生及真野様に絵画館設立の事を知らせ、絵画收集に就き助力を頼んだ。文部省専門学務局学芸課より（傷痍軍人美術家聯盟）慰問画提出の勧誘状着。

發信 | 石川先生 真野様

六月十四日 火曜 晴

井本所長、欽賢重役の上京を見送った。十一時半で出北、洪瑞麟君の作品を見に行った。自分の絵画館計画を話し、助力を頼んだ。晚、藍蔭鼎君を訪問、男子出産の祝をした。

六月十五日 水曜 晴

本社へ請負受けに出た。士林の鉱区図を池部様に見せて調査して貰った。午后一時瑞芳坑行、六時半帰宅。

六月十六日 木曜 晴

午后一時瑞芳坑行、七時帰宅。

六月十七日 金曜 晴

八時瑞芳坑行、六時帰宅。

六月十八日 土曜 晴

午前本社へ行って、池部から士林の炭層図を貰った。

晚、池部氏を訪問。

發信 | 彩美堂航空便

六月十九日 日曜 晴

九時四十五分で出北、洪天水と一緒に士林張新財の炭礦区を見に行った。一時に士林駅にかへり、二時北投に行って清秀閣で温泉に入った。写生道具を持って行ったが描けなかった。七時半帰北、九時五十分で帰基。

六月二十日 月曜 晴

七時半で瑞芳坑行、十一時帰宅。十二時十分で出北。二時十五分で八里ヶ浜海水浴場へ行ったが海に入らなかった。六時半全所を去って、八時で北投へ行って蓬萊閣別館に泊って温泉に入浴した。写生に行くつもりで出たが、一枚も描けなかった。

六月二十一日 火曜 晴

北投蓬萊閣別館で静養した。朝旅館で洪一枝に会って海山の事業の善後策をきいた。三時半北投を去って、大稻埕へ子供の薬を貰ひに行って七時半帰宅。

六月二十二日 水曜 晴

午前会本社へ請負賃貰ひに行った。午后頭痛甚しく、家で静養した。

受信 | 林冬桂

六月二十三日 木曜 晴

林冬桂氏渡廈に付見送に出た（九時）。午后一時で瑞芳坑行、六時帰宅。

六月二十四日 金曜 晴

十二時十三分で武丹坑行、二時四十九分で瑞芳坑へ寄って、六時帰宅。

六月二十五日 土曜 晴

十一時半で瑞芳坑へ支払に行った。五時帰宅。

受信 | 石川先生

侯太

六月二十六日 日曜 晴

七時半で瑞芳坑行、十一時帰宅。十二時十分で出北、教育会館で蒲田惜別展覧会、ホテルでの中村鉄個展を見た。藍君を訪問、三男の出産の祝を呈した。七時半帰宅。

六月二十七日 月曜 晴

一時で瑞芳坑行、五時帰宅。

受信 | 伊藤□吉

六月二十八日 火曜 晴

七時半で瑞芳坑行、十一時半帰基。

六月二十九日 水曜 晴

疲労甚しいので山へ行かず家で静養した。晩、林徳富来訪。

發信 | 文部省専門学務局

六月三十日 木曜 晴

午前本社へ請負賃貰ひに行った。一時半で瑞芳坑行、六時帰宅。

7月

七月一日 金曜 晴

十一時半で瑞芳坑行、跡間取った。六時半帰宅。

七月二日 土曜 晴

十一時半で出北、洪瑞麟君を訪問、東洋画廊展覧会を見た。芳子の薬を取って、七時半帰宅。

七月三日 日曜 雨

芳子熱高く、朝から夕立甚しいので、山を〔へ〕行かず休んだ。晩、洪一枝來訪。

七月七日 木曜 晴

八時で瑞芳坑行、十一時帰基。

七月八日 金曜 晴

八時で瑞芳坑行、十一時半帰宅。頭痛して嘔吐したので、今田医師の診察を受けて服薬した。

七月九日 土曜 晴

午前本社へ金受取に出た。午后出北、晚江山樓で国饗  
同期生会があるので出席した。終列車で帰宅。

七月十日 日曜 晴

七時で瑞芳坑行、公休日だが役員の慰労海水浴があつ  
たので留守番をして、六時半帰宅。

七月十一日 月曜 晴

十一時半で瑞芳坑へ支払に行った。午后一坑へ行っ  
て、主任から賞與金の事を話された。六時半帰宅。

七月十二日 火曜 晴

朝、侯熙を基隆炭礦に実習に連れて行った。十時半で  
瑞芳坑行、午后六時半帰宅。

七月十三日 水曜 晴

八時で瑞芳坑行、十一時半帰基。午后二時で出北、中  
元品等買物をして七時半帰宅。車中伊藤巡査に会ひ精  
神的に語り合った。石川先生から展覧会目録が来た。

七月二十五日 月曜 晴

十時で瑞芳坑行、工賃支払をした。

七月二十六日 火曜 晴

頭痛甚しく嘔吐をしたので、今田医師の診察を受けて  
服薬。

七月二十七日 水曜 晴

休養。

七月二十八日 木曜 晴

休養。

七月二十九日 金曜 晴

八時で瑞芳坑行、主任来坑、三時帰基。侯太内地より  
帰宅。

七月三十日 土曜 晴

八時で出北、鋼材配給願書を配給会社を通じ高工課へ  
提出。十時半のバスで新北投行、入湯、四時帰北。林  
徳富に会ひ湊中佐会見の件打合せた。玉美、菊秀帰來。

七月三十一日 日曜 晴

八時で瑞芳坑行、四時半帰宅。林德富来宅。

8 月

八月一日 月曜 晴

頭痛甚しく、山へ行かずに家で休養。晩、廣瀬の診察を受く。

八月十九日 金曜 晴

八時五分で出北、高銀へ四百円返金及利払をした。十時で新北投へ行って入湯した。三時で台北へ行き買物をして、七時で帰基。

八月二十日 土曜 晴

九時で瑞芳坑行、六時半帰宅。玉美、菊秀及林德富帰来。

八月二十一日 日曜 晴

頭痛甚しいので休んだ。昼前、顏木生来宅。午后二時、全家族及二人の女婿集ったので、応接間で全揃の写真をうつした。

八月二十二日 月曜 晴

気分またよくないので、山へ行かずに家で静養した。

八月二十三日 火曜 晴

侯太二時出帆の高砂丸で上京、全家族皆見送りに行つた。玉美、菊秀見送り後、二時半で帰北。九月号風景着。何信盛来宅。

9月

---

九月一日 木曜 晴

八時で瑞芳坑行、十二時で帰基。四時二十五分で出北、七時に江山樓で山本鼎画伯の歓迎会があった。二次会を鶯々女士の所でやって、終列車で帰基。

九月四日 日曜 晴

八時五分で出北、十一時半局営バスで淡水行、山本鼎画伯を公会堂に訪問、五時半のバスで帰北。九時十八分で帰基。林徳富、菊秀帰来。

九月五日 月曜 曇

林徳富訪廈、見送りに出た。林冬桂氏に貸すべく金五百円、林徳富に持たせて行った。

九月七日 星期三 晴

蘭英帰来。

九月十四日 水曜 雨

八時五分で出北、エルテルの玉葉をモデルにして四つ

切一点かいた。

九月十五日 木曜 雨

昨日の暴風の為め分坑管卸浸水三百尺位。八時のバスで分坑行、六時半帰宅。武丹坑無煙斜坑坑口迄浸水、被害多し。

九月十七日 土曜 晴

十二時四十五分で出北、カフェー百合で入江をモデルにして四つ切一枚かいた。アカイ縞の長衫、特に気に入った。

九月十九日 月曜 晴

八時で瑞芳坑行、十一時半帰宅。十二時四十分で出北、人物クロッキーに行った。

九月二十日 火曜 晴

十二時四十五分で出北、第一カフェーで女給かすみをモデルにして四つ切一点描いた。八分通り出来た。晚七時、蓬萊閣で山本鼎先生と共に晚餐を食べた。終列車帰基。楊佐三郎君に頼みて、エルテル女給陽子をモデルになる様に交渉した。

九月二十一日 水曜 晴

明治生命保険の為、小島医師に身体検査を受けた。小便に蛋白質多く、血圧百七十あるのを注意されて静養した。

九月二十二日 木曜 晴

頭痛を催し、家で静養。

九月二十三日 金曜 晴

静養。晩、洪瑞麟、顏錦地見舞に来宅。

九月二十四日 土曜 晴

基隆東壁書画会秋季習作展を同風会々館で開催。午后二時見に行って、奨励として画三幅、書二幅買〔壳〕約した。晩、大藪及三崎見舞に来宅。

九月二十五日 日曜 晴

久保医師の診察を受けた。

九月二十六日 月曜 晴

基隆病院長の診察を受けた。侯太に 40 円、近藤に

20 円の小為替を航空便で送った。どこへも行かずに  
静養した。

## 10 月

十月六日 木曜 晴

八時五十分の急行で出北、十一時過ぎよりエルテルで女  
給を画く。愛子一枚（青い服）、陽子一枚（赤い服）  
出来た。容易にモデルにならない陽子が始〔初〕めて  
快くなつたので気持ちよく出来た。藍君にも電話して  
一しょにクロッキーさせた。明日の内地行を延期し  
た。

十月七日 金曜 晴

午前病院へ通つた。□時半のバスで瑞芳坑行、六時  
五十分で帰宅。

十月八日 土曜 晴

八時五十分の急行で出北、十一時過ぎからエルテルで  
又陽子を描いたが、気分がわるいとて落付ないから出  
来が悪かった。明美のクロッキはよく出来た。二時よ  
り第一カフェーへ行って、ルリー子をモデルにして描  
いた。顔が出来てから当番になって逃げられたので、  
服は想像で色をつけたので失敗して残念だった。

十月九日 日曜 晴

久保医師に診察を受け、血圧を計ったが百四十だったので安 [心] した。十時半、双葉小学校の運動会を一寸のぞいて、十一時帰宅。□時半のバスで瑞芳坑行、内地行主任の許可を得てから、五時六分で帰基。晩、病院で宮崎様を訪問、内地行を挨拶した。

十月十一日 火曜 晴

午前十一時出帆の高砂丸に乗船、内地に赴いた。二等満員の為め一等に乗った。夜、船医に診察を受けたが、血圧高くなく、心配無用だった。

十月十二日 水曜 晴

午前、長谷川病院長を訪問。午后、黃奕浜來訪。

十月十三日 木曜 曇

午后一時門司入港、下関へ上陸。門司へ廻って帰船。台展に就いての原稿を台日及新民報へ航空便で送った。

十月十四日 金曜 曇

午前九時半神戸入港、近藤先生の奥様出迎に来られ、

一しょに大阪市立美術館で開催中の名宝展及院展を見た。近藤宅に一晩とまった。

十月十五日 土曜 雨

大阪発九時二十分の臨時急行で上京、午后七時半東京着。電報の行違でホテルの番頭及侯太、前の急行で出迎に来て帰った。

十月十六日 日曜 雨

九時宮崎ヘモデルを雇ひに行って、午前午后夜間の三人を決めた。十一時十分前、美術館食堂で石川恩師に会ひ、中食後文展を見た。洋画のみを見て、疲れを感じたので、先生と四時頃ホテルへ帰った。侯太晩に来た。一しょに榎本先生を訪問し、侯太の世話を謝した。

十月十七日 月曜 雨

大阪迄夏服を用ひたが、雨が降ってから急に寒くなつた。モデルを描き始めたが、疲れたので単にクロッキーだけやつた。午前松阪屋へ貴金属買ひに行った。

十月十八日 火曜 曇

午前、裸体立像四つ切一点描いた。午后、コスチュウム四つ切描いたが、侯太、瀧口、真野先生、石川先生来訪されたので未完成。夜間クロッキ描きかけの所、篠崎様来訪したのでやめた。二十分位語り合った。

十月二十二日 土曜 晴

午前八時下関着、十時富士丸に乗船。

十月十九日 水曜 曇

午前のモデル休んだ。台銀へ札交換に出た。午后、未完成のコスチュウムを完成、更に裸体四つ切一点かいだ。夜間四つ切一点描いた。肉色の美しいのに感激した。

十月二十日 木曜 曇

午前、裸体四つ切一点描いた。杉本幸一郎氏来訪、モデルと一緒に中食に出て、午后文展を見に行った。山中氏に会った。四時、館を去って松板屋へ買物に出た。夜間裸体一点（四つ切）描いた。

十月二十一日 金曜 大雨

暴風雨。九時半ホテルを出た。十時半発の急行に乗った。杉本様、藤野様、モデルの見送を受けた。二時間後すっかり晴れて、秋晴の美しい風景美に見とれた。乗客の上品な婦人に会い、一寸クロッキー やった。

11 月

十一月十三日 日曜  
山へ行かずに家で画を補筆した。

十一月十四日 月曜 雨  
朝八時で瑞芳坑行、六時帰宅。

十一月十五日 火曜 雨  
水兵伊藤彦吉及黒飛氏來訪、款待し別れた。二十年来珍藏した金貨二十円一枚十円二枚五円五枚、国防献金として市役所へ提出した。別れ惜しい気分するが、國家の為めだから涙をふるって出した。南天棒師の揮毫せる書を求めた。

12 月

十二月九日 金曜 雨  
八時瑞芳坑行、十一時半帰宅。十二時四十五分で出北、百合で四つ切一点描いた。紅い支那服とても美しく感じた。

十二月十一日 日曜  
發信 | 石川先生  
侯太

十二月二十四日 土曜 曇  
廿六年前内地修学旅行のスケッチ浜名湖及京都の□二点、当時の愛國婦人雑誌の原色版口絵が、図らずも清蓮の恩師稻垣先生が遠き台中より友人の珍藏せる処、無理に願って送ってくれました。昔別れた娘が行衛不明になって尋ねてゐる所へ、偶然父子会へた様な気がして、とても愉快でした。

倪蔣懷日記 1939 年

發行人 | 館長駱麗真

日文釋讀、校對 | 鈴木惠可、徐聖凱、莊慈、廖春鈴

執行編輯 | 莊慈

美術設計 | 胡若涵

數位出版日期 | 中華民國 114 年 11 月

發行所 | 臺北市立美術館

104227 臺北市中山區中山北路三段 181 號

電話 | (02) 2595-7656

版權所有 | 臺北市立美術館

文字版權所有 | 釋讀者

\* 為尊重智慧財產權，參考使用需標示「釋讀者姓名」

#### 編輯凡例

一、日記原文無標點，為便於讀者理解特加標點符號。

二、文中日文漢字統一使用「日本新字體漢字」。

三、為求版面統一，文中內容皆不換行。

四、原文標記刪除的部分（作者因書寫有誤而刪除者），一律刪除。

五、文中「四つ切」、「八つ切」之「つ」，因平假名與片假名之大小字「つ」、「っ」、「ツ」、「ッ」皆有出現，為方便讀者閱讀，統一使用平假名大字「つ」。

六、文中如有漏字，以【 】補之。

七、文中如有無法辨識的字，以□標示。

八、文中如有錯字，更正於後之〔 〕內。

九、1939 年日記因作者未逐日書寫，故本書僅收錄具書寫內容之日期。



1月

一月一日 日曜

朝早く起きて神仏に年賀を奉る。八時のバスで瑞芳坑行、新年祝賀式を行た。十一時のバスで帰基。午后に瑞芳へ廻礼、侯熙に基隆の世話になってゐる人へ廻礼せしむ。

一月二日 月曜

蘭英帰宅。侯太へ受験学校の希望の手紙を出さしむ。基隆医院へ診察を受く。顔窗吟の見舞をなす。ヴェルネ水彩絵具から依頼状来る。使用色を飛行便で知らせた。繁野三郎から雪景色の原色版の年賀状来る。

一月三日 火曜

君子成人之美 不成人之惡

藝術家作自然之美 不作自然之醜

君子隱惡揚善 藝術顯美隱醜

常人見醜惡之處 藝術家美化之

金玉非寶藝術乃是至寶

心靈無形藝術即其象形

君子教人之善捨人之惡

藝術表物之美暗物之醜

君子懷德

藝術樂美

世人は人の缺点をよくさがし出し、人の善をかくす。藝術家は自然の美をさがし、其醜を美化する。

一月六日一八日

石川欽一盧先生

喜寿祝賀紀念

## 寶峯美術館

文惠立案

一、位置

1. 台北市富田町台北帝大東隣倪家所有地
2. 台北市大龍町文廟附近
3. 台北市内繁華なる場所

二、構造

壁赤煉瓦造二階建、屋根は廟の様に曲線美を表はし、床及四隅は鉄筋コンクリートにす。要するに台湾建築の曲線美をとり、文明科学の合理にかなふ堅固なる建物にす

階下三室中一室は通路北向、右の室は事務所及美術書籍閲覧室

左の室は同好者の研究室及彫刻室にす  
二階中央室は第一室とし、欽一盧作品室  
第二室は門弟作品及島内作品室

第三室は内外作家室（日本水彩画会々員一点宛及  
外国作品）  
右第一次計画

### 第二次計画

左右に一室宛ふやし、第四室は遺作室

第五室以下は篤志家ノ寄附作品室

### 三、附属行事

年二回公募展を行ふ（開館紀念日一回、他ニ一  
回）額縁を備へつけ、地方出品者の便宜を計る  
画家の個人展にも便宜を与ふ

### 四、維持費

1. 入場は無料とし随意に寄附的に投入せしむる事
2. 個人展の借館料も無料とし壳約に対し五分位の  
寄附なら喜んで受ける事
3. 研究生は無月謝にし交替して番をなし事務をとる

### 一月十日　火曜

午后、大藪様の奥様見舞に来られた。晩、大藪様と三  
崎様見舞に来られて、思った事をどんどん話した。

### 一月十一日　日曜

基隆医院の診察を受く。血圧百五十五に下ったので安  
神〔心〕した。

一月十三日　金曜  
近江時五郎氏を訪問、生憎不在。基隆医院の診察を受  
く。血圧一七〇。

### 2 月

---

### 二月五日　日曜

午前十時基隆病院の看護婦二人来宅。十二時過に四つ  
切二枚スケッチした。白衣の天使というふり、命の天  
使と題目をつけたい。

### 二月十日　金曜

十一時五十五分で出北、吉村高彦主催の現代水彩画  
展覧会に招待された。エルテルで女給をモデルに四  
【つ】切一点スケッチした後、会場へ行って見た。猪  
熊氏作のデッサン撤回されたものを一点買〔売〕約し  
た。六時過ぎよりモンパリで晚餐の招待に預り、九時  
二十八分の列車で帰宅。朝、日本生命の主任医の身体  
検査があった。三万円保険。

二月十一日 土曜

午后十二時半で瑞芳坑行。三時より職員を集めて打合  
会をなし、六時半帰宅。

二月十二日 日曜

午後一時より基隆女学校で音楽会があるのできゝに行  
って四時半帰宅。侯熙も共に行った。

4月

---

四月三十日 日曜

朝早く瑞芳一坑へ行き、主任と分坑の単価を打合せた  
が纏らず、十時半帰基。二時出帆の大洋丸で上京の途  
に就いた。

5月

---

五月三日 水曜

十一時頃神戸入港、近藤母様出迎に来てくれた。疲の

為め美術館へ寄らずにすぐ全家へ行った。夜十時半過  
話し合た。

五月四日 木曜

九時十分の臨時急行で東京へ行き、夜七時半東京着、  
侯太、□□、□□出迎えに来た。菊富士ホテルに泊っ  
たが、夜不眠症で耳鳴がして困った。

五月七日 日曜

宮崎ヘモデル雇に行った。午后、裸体一点描いた。

五月八日 月曜

夜、学士会館へ行って宮崎次長に会ひ、分坑の工賃単  
価に就き陳情した。

五月十日 水曜

日本水彩画会開会。春陽会、現代美術展も見たが、深  
く印象に残る作品少なかった。水彩画二三点予約した。  
木下忠夫様へ会い土産を貰った。

五月十六日 火曜

夜九時の急行で東京を出発した大石うめ様及其の娘様、□□、□□見送りに来てくれた。侯太に随行さした。

五月十七日 水曜

午前十一時十分倉敷に着し、直に大原美術館を見に行った。いろいろ参考になった。二時十分岡山へもどり、夜十一時半の急行で下関に行った。

五月十八日 木曜

七時下関着、十時門司から蓬萊丸に乗船（侯太帰京）。

五月二十日 土曜

午后一時入港、帰宅。

7月

---

七月一日 土曜

午后二時頃、侯太から「フジハラコウダイパス」の快

電に接し一安神〔心〕した。医学方面に合格せず、工学方面に合格したのは反って発展性に富み、よかったと思った。

七月十二日 水曜

石川先生、大石うめ様、榎本先生、侯太へ手紙を出す。

七月十三日 木曜

前日来の草湯を飲んだ結果蛋白なくなり愉快だった。九時五十七分で出北、陳徳旺、張萬傳を訪ね、絵具代百円やった。八時過帰宅。

七月十五日 土曜

川崎一、レートン絵具会社へ手紙を出す。

七月二十三日 日曜

公益社二階での兵隊と画の展覧会を見に行って、五点買〔壳〕約した。

七月二十五日 火曜 晴

午后一時、瑞一分坑行。

七月二十六日 水曜 晴

林氏珠口、十時出帆で廈門へ帰って行った。蘭英、昼前帰来。

特別記事 | 午后二時十分六男出生した

發信 | 侯太へ航空便

受信 | 池部

七月三十日 日曜

午后一時半出北、十人展の皇軍慰問展を見物、慰問画二点買 [壳] 約した。風景到着。

受信 | 志保田先生

七月三十一日 月曜

特別記事 | のこった金飾品全部恤兵金として献金した

8月

---

八月二日 水曜

八時四十五分平田氏と武丹坑行。久振にて無煙斜坑へ入坑。

八月六日 日曜

十一時二十五分で出北。午后三時藍君を訪問。全四時高橋惟一を訪問。八時半帰着。東壁書画会の展覧会打合会があった。

八月七日 月曜

早朝、欽賢様を訪問。午后、瑞芳分坑行。

八月八日 火曜

發信 | 都築、野田、伊藤、蕭天旺、菊秀

八月十日 木曜

正午高橋惟一及其夫人來訪、ためた作品を見せて、其の善惡を鑑別して貰った。最も缺点は前景に強き綠でもあれば最もよいと。人物よりは風景は永年描きたる為良作多しと。

八月十一日 金曜

八時で瑞芳坑行、一時帰宅。一時半侯太を迎に波止場へ行った。蘭英も木生も出迎に来てくれた。近藤様からテーブルセーター及菓子送來の手紙を貰った。

受信 | 近藤省吾

## 11 月

十一月十九日 日曜

九時半香港丸乗船、十一時半出帆。廈門へ行く。浪なく港内を航海するに似てゐる。林冬桂父子同船。

十一月二十日 月曜

未明廈門港外に着。十時上陸、林徳富出迎に来船。菊秀見舞に行った。

十一月二十八日 火曜

林冬桂氏と南善陀へ参詣した。四つ切一点写生したが、昨日の過労の為め頭痛甚しく、中食后三四点の鉛筆スケッチをしただけで、タクシーで午后三時帰宅、静養。

十一月二十九日 水曜

市政府及友人へ挨拶に廻った。

十一月三十日 木曜

午后一時香港丸に乗船、三時出帆。林徳福、林冬桂等

見送ってくれた。出帆後浪非常に荒れたが元気でした。

## 12 月

十二月二十二日 金曜

發信 | 石川先生 大石うめ  
大石太郎

□□□